



シスメックス

あんしんレポート2010

CSR取り組みに関する報告書



We Believe the Possibilities.

編集方針

シスメックスの社会的責任(CSR)に関する考え方とその活動について、ステークホルダーの皆様へお伝えし、皆様との対話を深めることを目的として、毎年「シスメックスあんしんレポート」を発行しています。

第4回の発行となる今回は、グローバルに事業を展開するシスメックスのCSR活動の全体像をご理解いただくことを目指しました。「活動レポート」と題した章を設け、世界各地域での2009年度の主な活動を紹介するとともに、現地のステークホルダーの方々のコメントを掲載しています。

報告範囲**対象期間**

2009年度(2009年4月1日から2010年3月31日まで)を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。

対象組織

原則としてシスメックスグループ(シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社)を対象としています。本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを指します。

参考にしたガイドライン

- ・環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」
- ・GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」

発行時期

2010年7月

本報告書に関するお問い合わせ先

シスメックス株式会社 CSR・環境推進室
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1
TEL.078-265-0500(代表)
FAX.078-265-0524

将来に関する予測・計画について

本報告書には、シスメックス株式会社とそのグループ会社に関する過去の事実だけでなく、将来の予測・計画なども記載しています。これらの予測・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。したがって、将来の事業活動の結果や将来に起こる事象が本報告書に記載した予測・計画とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご承知いただきますようお願いいたします。

- 3 シスメックスについて
- 5 トップメッセージ
- 7 企業理念・行動基準

活動レポート

世界中の人々に健康と安心をお届けするために

9 Japan

新型インフルエンザの大流行を受け、
検査キットの供給体制を強化

- 11 身近な場所で、自分で手軽に
健康状態をチェックできるサービスを開発し、
日常的な健康管理を支援

13 China

検体検査の迅速化・精度向上や、
医療従事者の技術・知識レベル向上に貢献

15 **Asia Pacific**

フィリピンで、検査室の
品質マネジメントシステム構築を支援

17 **Americas**

アメリカ合衆国で、血液がんの研究助成
などに取り組むNPOの募金キャンペーンに
従業員が積極参加

19 **Europe**

乳がん患者様のQOL向上に寄与する
検査システムの普及を推進

21 チェコにエデュケーションセンターを設立し、
お客様の検査技術・学術知識の習得を支援

23 **Africa**

ケニアでHIVの感染拡大防止に
取り組むNPOに検査機器を寄贈

25 コーポレート・ガバナンス

27 お客様への責任と行動

29 従業員への責任と行動

31 取引先への責任と行動

32 株主への責任と行動

33 企業市民としての責任と行動

35 地球環境への責任と行動

35 環境マネジメント

37 事業活動にともなう環境負荷

38 2009年度環境活動計画と実績

39 生産工場・事業所における環境配慮

40 ■ 第三者意見



シスメックスについて

シスメックスの製品は、世界中の病院や検査センターで医療のための検査に用いられ、人々の健康と生命を支えています。

シスメックスは、検体検査のための機器・試薬やサービス&サポートを世界160カ国以上の医療機関に提供しています。また、がんや糖尿病などのライフサイエンス分野にも事業を拡大し、価値の高い検査や診断技術の研究開発に取り組んでいます。

検査の流れ

検体の採取



血液や尿、細胞などを採取します

検体検査



検体の成分を分析し、診断の根拠となるデータを提供します

診断・治療



検査結果に基づいて医師が治療方針を決定します

事業内容

検体検査事業

検体検査事業では、血液中の赤血球・白血球の数や機能を分析する血球計数検査、血液が固まって止血する働きを調べる血液凝固検査、肝炎ウイルスなどの有無を調べる免疫血清検査、尿中の糖・たんぱく質・血球の有無を調べる尿検査などの検体検査に必要な装置や試薬、臨床検査情報システムなどの製品とサービス&サポートを幅広く提供しています。



HSTトランスポートシステム HSTシリーズ



多項目自動血球分析装置 XE-5000



全自動免疫測定装置 HISCL-2000i



全自動血液凝固測定装置 CS-2000i



全自動尿中有形成分分析装置 UF-1000i

ライフサイエンス事業

検体検査事業で培った技術をもとに、遺伝子、たんぱく質などを調べる最新のテクノロジーを用いて、全く新しい検査・診断技術の創出に注力しています。主にがんの確定診断や再発予防を目的とした研究開発を行っており、がん細胞のリンパ節への転移の有無を短時間で調べる検査技術については、世界各国で市場導入を進めています。



遺伝子増幅検出装置 RD-100i



遺伝子増幅検出試薬 リノアンプ®BC

その他事業(粒子計測分野、ヘルスケア分野など)

粒子計測分野では、セラミックス、電子材料、研磨剤、食品などの産業に、粒子を正確に計測・評価する装置を提供しています。また、ヘルスケア分野では、採血せずにヘモグロビンを推定する装置など、独自の技術を活かした新しい分野への挑戦を続けています。

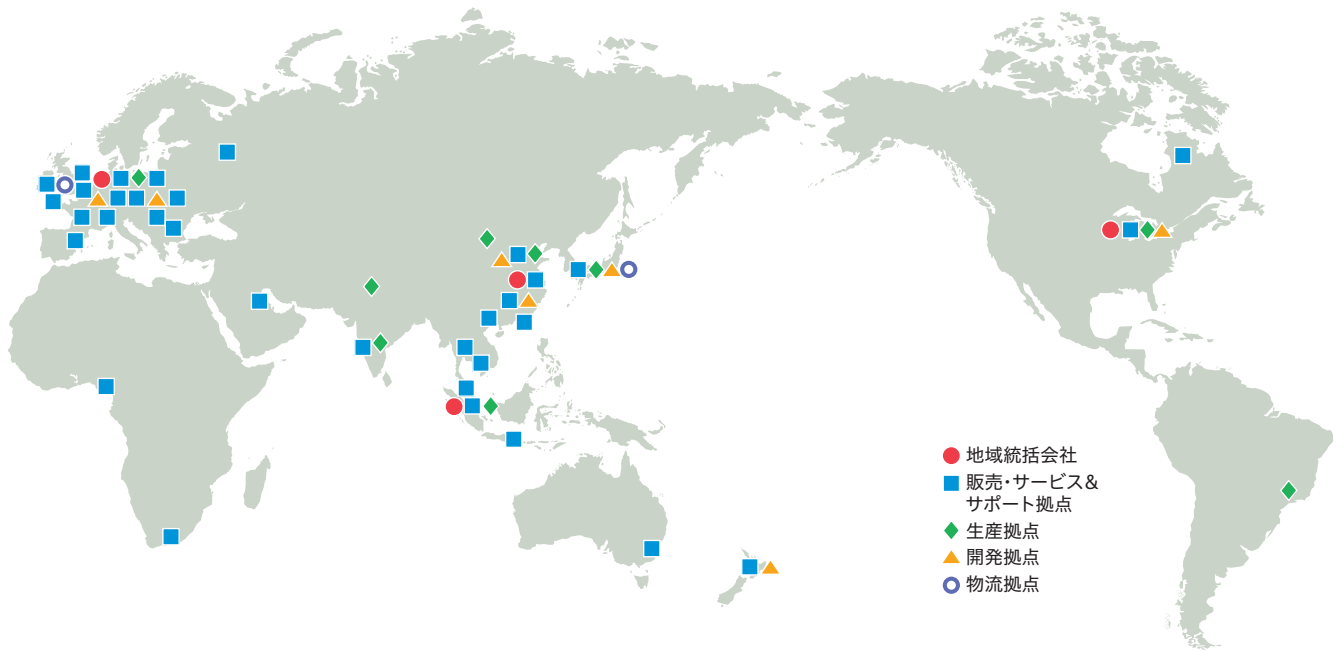


フロー式粒子像分析装置 FPIA-3000



末梢血管モニタリング装置 ASTRIM SU

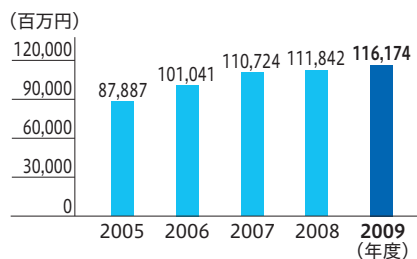
グローバルネットワーク



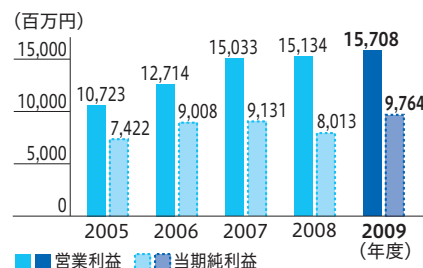
会社概要

社名	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION	事業内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに 関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入
設立	昭和43年(1968年)2月20日	主な販売先	国公立病院、一般病院、大学、研究所、 その他医療機関 ほか
資本金	88億2,400万円	輸出先	世界160カ国以上
代表者	代表取締役社長 家次 恒	連結対象会社	43社(国内6社、海外37社)
本社所在地	兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号		

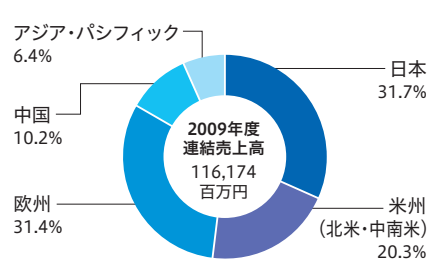
連結売上高



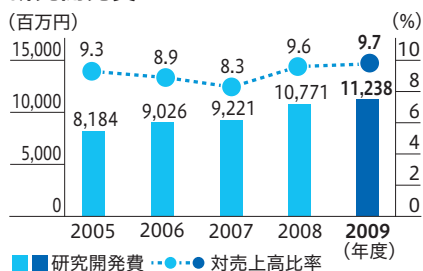
連結営業利益/連結当期純利益



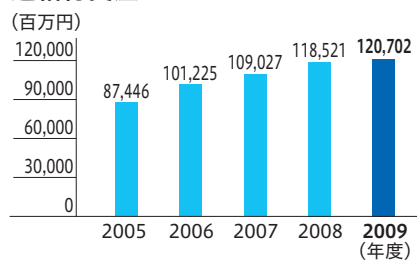
地域別売上高



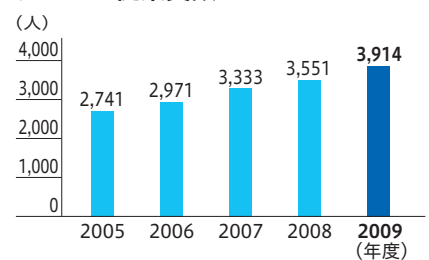
研究開発費



連結総資産



グループ従業員数



すべての人々に「安心」をお届けしたい—— 創業以来大切にしてきたこの想いを源泉に、 ヘルスケアの発展に取り組んでいます。

ヘルスケアの発展に貢献するために

シスメックスは1968年の創業以来、検体検査の分野で先進の技術をベースにさまざまな製品やサービスを生み出してきました。現在、世界160カ国以上の医療機関でシスメックスの製品やサービスが使用されています。

近年では、技術の発展や社会構造の変化にともなって、医療を取り巻く環境も大きく変わりつつあります。こうした流れは、21世紀のセカンド・ディケイド(2010年代)においても、ますます加速していくと予想されます。シスメックスは、こうした変化を先取りし、お客様や社会からの要請・期待に迅速に応え、その責務を果たしてまいります。そして、事業を発展させながら、ヘルスケアへのいっそうの貢献を果たしていきたいと考えています。

シスメックスの製品やサービスは、病気やケガで苦しむ患者様の早期回復や、QOL(Quality of Life:生活の質)向上を図るうえで欠かせないものです。「健康で長生きしたい」「命を守りたい」という、世界中の誰もが抱く願いを少しでも多く叶え、「安心」を実現したい——それが、創業以来変わらぬシスメックスの想いです。この想いを源泉として、これまで以上に迅速かつ正確で患者様の負担が少ない検査を追求し、ヘルスケアの未来を探究してまいります。

ステークホルダーの皆様に 「安心」をお届けしていくために

シスメックスは、企業理念「Systemex Way」と行動基準のもと、日々の業務を通じて、お客様や取引先、従業員、株主などステークホルダーの皆様に「安心」をご提供していくことを大切にしています。

Systemex Wayと行動基準に従って、従業員一人ひとりが「安心」をご提供するための活動を着実に積み重ねながら、

ヘルスケアの発展に貢献していくこと——これこそが、シスメックスのCSR(企業の社会的責任)に他ならないと考えています。

2009年度もこれらの活動を推進し、社会からさらなる信頼を得られるよう努力を重ねました。以降に2009年度の主なCSR活動についてご報告します。

品質の向上を追求して

検体検査関連製品は、人々の生命や健康を支えるものです。それゆえ、シスメックスでは、これら製品の品質を向上させるために積極的に取り組んでいます。

2009年度には、海外のグループ会社を含むグループ全体を対象とする「シスメックスコーポレーション品質コンプライアンス方針」を策定し、あらためて全従業員に対して、遵守すべき法規制や社内ルールの周知徹底を図りました。また、新製品開発段階における品質確保のしこみを強化しました。

さらに、シスメックスでは、製品の品質のみならず、あらゆる業務の品質を向上させ、お客様に満足をご提供することが重要であると考えています。こうした考え方を品質方針の中に明記することで、お客様の立場に立った活動を促進し、期待を超える満足をご提供することを目指しています。

各国・各地域の多様なニーズに応じて

シスメックスの事業はグローバルに広がっていますが、それぞれの地域ごとに医療環境は異なり、ニーズも多種多様です。

先進国では、がんや生活習慣病などの増加が問題となっています。がんに関しては、手術などの治療行為にと



もなう患者様への負担が大きいことも課題となっており、QOLの観点から改善が求められています。こうした課題の解決に貢献するために、2009年度にシスメックスは「乳がんリンパ節転移迅速検査システム」の普及に取り組みました。このシステムを使用すれば、乳がんのリンパ節への転移の有無を、これまで以上に迅速かつ高精度に検査できるため、患者様の負担軽減につながります。

新興国では、経済的な成長が続く一方で、医療インフラがいまだ十分整っているとは言えません。シスメックスは、例えば中国で学術セミナーの開催などを通じて医療の質の向上を支援しています。

発展途上国では、HIV／エイズやマラリアなどの蔓延が大きな問題となっています。シスメックスは、HIV感染者が集中するサハラ以南のアフリカ各国の医療機関などに、小型で簡単に操作できる検査機器を無償提供してきました。2010年5月にも、ケニアで無料診療活動などに取り組んでいるNPO「イナダ・ラングエイズ研究財団」に、この検査機器を寄贈しました。

2020年度までの長期環境目標を策定

地球温暖化や資源枯渇などの環境問題は、ますます深刻化しています。

シスメックスは2010年4月に「シスメックスグループ環境行動計画(シスメックス・エコビジョン2020)」を策定し、その中で「地球温暖化対策」「資源の有効利用と廃棄物の削減」などのテーマについて2020年までの長期環境目標を設定しました。

今後、目標達成に向けて、これまで以上に積極的に環境保全活動を推進していきます。

これからもシスメックスは、コーポレートメッセージである「We Believe the Possibilities.」のもと、グループと地球社会の持続的な発展を実現するために挑戦を続けていきます。

ステークホルダーの皆様には、今後ともいっそうのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

冨 次 恒

シスメックスグループ企業理念

Sysmex Way

Mission

ヘルスケアの進化をデザインする。

Value

私たちは、独創性あふれる新しい価値の創造と、
人々への安心を追求し続けます。

Mind

私たちは、情熱としなやかさをもって、
自らの強みと最高のチームワークを発揮します。

行動基準

お客様に対して

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。
常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

従業員に対して

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、
安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。
自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

取引先に対して

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。
相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

株主様に対して

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様
に安心を届けます。
堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

社会に対して

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。
環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。

世界中の従業員一人ひとりが 企業理念「Sysmex Way」の実践に取り組んでいます。

従業員が、Sysmex Wayの実践について 自ら考える「VQ(バリュークエスト)」活動

シスメックスでは、企業理念「Sysmex Way」の実践を推進するために、2008年度から「VQ(バリュークエスト)」活動を実施しています。これは、Sysmex Wayをどのように実践していくべきかを従業員一人ひとりが自ら考え、皆で議論する活動です。

2009年度にも継続してこの活動を実施しました。まず、社長から問い掛けが発信され、それに対して世界中の従業員から多くのアイデアが寄せられました。次に、これらのアイデアをもとにして設定されたテーマごとにチームを結成し、数カ月間にわたって議論を重ねました。これらの成果は、2009年12月に開催した「VQセッション」において発表されました。このセッションには、海外グループ会社の従業員を含む約200名が参加し、地域や組織の垣根を越えたコミュニケーションが実現しました。

また、2008年度に従業員から寄せられたアイデアの中には、地元神戸市の中学校への出張授業(P34参照)や、イントラネット上の「働きやすさの窓口」サイト開設(P30参照)など、

すでに実行に移されたものもあります。

シスメックスでは、今後もこの活動を継続して実施し、皆で知恵を出し合い、コミュニケーションを深めながら、Sysmex Wayの実践に取り組んでいきます。

「シスメックスグループ環境行動計画 (シスメックス・エコビジョン2020)」を策定

地球温暖化、資源枯渇、生態系破壊など地球環境問題は、ますます深刻化しており、環境保全のための取り組みは、企業に求められる重要な責務の一つとなっています。

こうした状況にあって、シスメックスは2010年4月、Sysmex Wayと環境方針に基づいて「シスメックスグループ環境行動計画(シスメックス・エコビジョン2020)」を策定しました。この中で「地球温暖化対策」「資源の有効利用と廃棄物の削減」「水資源の有効利用」などのテーマについて、2020年を達成期限とする長期環境目標を設定しました(P36参照)。

今後、目標達成に向けて、環境に配慮した製品・サービスの開発・普及、事業活動の効率化による省エネルギー・省資源化などを推進していきます。

2009年度のVQセッション



活動レポート

世界中の人々に健康と安心をお届けするために

Japan

新型インフルエンザの大流行を受け、検査キットの供給体制を強化

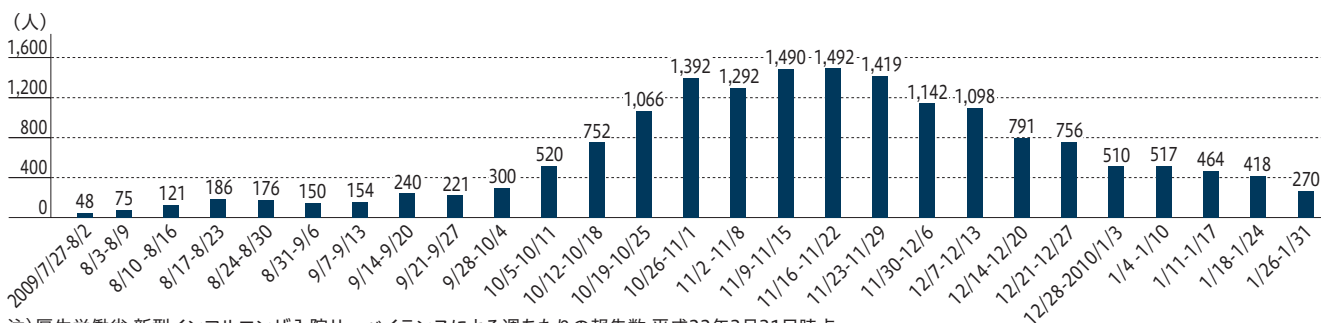
新型インフルエンザが大流行した2009年、シスメックスはインフルエンザ検査キットの供給体制強化を進めました。さらに、今回流行した豚由来の新型インフルエンザ以上の脅威が予想されている鳥由来の新型インフルエンザに備え、鳥由来インフルエンザウイルスだけを検出できる試薬（鳥由来インフルエンザウイルス核蛋白検出試薬：研究用）の開発に取り組みました。

新型インフルエンザの再流行に備えて

2009年4月に発生した新型インフルエンザは、日本では5月に最初の感染者が発見され、11月末に流行のピークを迎えました。以降、患者数は減少し、2010年3月現在、ほぼ沈静化しましたが、今後も警戒が必要です。

また、今回流行したのは、豚由来の新型インフルエンザでしたが、世界保健機構（WHO）が当初、世界的大流行を予想し

新型インフルエンザ発生状況の推移（日本）



注)厚生労働省 新型インフルエンザ入院サーベイランスによる週あたりの報告数 平成22年3月31日時点
出典:厚生労働省「インフルエンザ定点報告について」(2010年4月2日)



インフルエンザウイルスキット「ポクテムS インフルエンザ」



鳥由来インフルエンザウイルス核蛋白検出試薬（研究用）

ていたのは、鳥由来の新型インフルエンザです。2003年以降、アジアの国々ではこのインフルエンザの感染者が発見されており、その致死率は60%近くにのぼります。豚由来インフルエンザの再流行に備えるとともに、鳥由来インフルエンザの大流行を想定した医療体制の整備が求められているのです。

インフルエンザ検査キットの供給体制を強化

シスメックスは、日本での新型インフルエンザ発生以降、増え続ける需要に対応するためにインフルエンザ検査キットの製造能力を倍増させました。

これらのキットに用いられる試薬を生産する西神工場（兵庫県）の製造要員を増やすとともに、必要な部材を早急に調達し2009年4月から2010年3月までの1年間で約18万7,000箱を供給しました。今後、自動生産設備の導入などを実施し、2008年度比の5倍まで製造能力を引き上げ、突発的



西神工場の試薬製造装置



日本 2009年5月



試薬の研究開発

な需要にも迅速に応えられるようにします。

しかし、いかに製造能力を高めても、従業員にインフルエンザ感染が広がれば、供給に支障をきたす可能性があります。シスメックスでは2009年6月に、新型インフルエンザの感染拡大を想定し、「医療現場の検査業務を停滞させないために製品供給と機器修理を継続すること」と、「従業員の安全を確保すること」を主眼とする行動計画を策定しました。この中で、必要な対応を迅速かつ確実に実行できるように、感染予防の方法や備蓄品の準備、緊急対策本部の設置などに関して明確な方針を定めています。

鳥由来インフルエンザの研究に役立つ 新たな検査試薬を開発

2009年度には、鳥由来の新型インフルエンザの研究に役立つ製品の開発にも取り組みました。

これまで、ヒトインフルエンザウイルスと鳥由来インフルエンザウイルスを判別するには、数少ない専門機関で遺伝子増幅法などを用いて分析しなければならず、所要時間も数時間程度かかっていました。

こうした課題を解決するために、シスメックスは大阪府立公衆衛生研究所との共同研究で、鳥由来インフルエンザウイルスとヒトインフルエンザウイルスの内部に存在する核蛋白の構造のわずかな違いを検出できる技術を開発し、この技術をもとに、ヒトインフルエンザウイルス※1には反応しない「鳥由来インフルエンザウイルス核蛋白検出試薬(研究用)」を完成させました。

検体を試験紙に滴下するだけで、約10分間という短時間で鳥由来インフルエンザウイルス※2のみを検出できるようになりました。

この試薬は、2009年11月に研究機関などを対象として販売を開始しました。将来的には、診断目的で使用できる臨床用製品の開発を目指します。

※1 ヒトから分離されたA型(H1N1、H2N2、H3N2)およびB型の計19株の培養インフルエンザウイルスで確認。

※2 鳥類から分離されたH3からH15までの計18株の培養A型インフルエンザウイルスで確認。

ステークホルダーの声

検査のさらなる迅速化と 安定供給をお願いします

浜本小児科 院長
浜本 芳彦様



昨年、世界中で新型インフルエンザが猛威を振りましたが、日本は比較的被害を小規模に抑えることができました。一部で過剰という声もありましたが、国として迅速かつ適切に対策を講じ、また医療従事者や国民が真摯にこの脅威に立ち向かったからこそ、対応できたのだと思います。

流行時には、医師や検査技師は1分1秒を争って診断に当たります。今後は、さらに迅速に結果がわかる検査キットを開発していただくことを期待しています。そして、なによりも重要な使命として、ふたたび大流行が起こった場合でも必要な検査キットが日本中にいきわたるよう、メーカーの方々には安定供給に努めていただきたいと思います。

活動レポート

世界中の人々に健康と安心をお届けするために

Japan

身近な場所で、自分で手軽に健康状態をチェックできるサービスを開発し、日常的な健康管理を支援

シスメックスは、一般の人が自分で操作して手軽に健康状態をチェックできるサービス「タッチで続ける健康日誌」を開発しました。ドラッグストアや調剤薬局など身近な場所へ導入を進めており、多くの人々の日常的な健康管理を支援しています。

街中のドラッグストアなどの身近な場所で手軽に健康チェックが可能

日本人の死亡原因は、第1位が「がん」、第2位が「心疾患」、そして第3位が「脳血管疾患」となっており、全死因の6割を占めます。いずれも生活習慣とのかかわりが深く、予防には日常的な健康管理が大切です。身近な場所で手軽に健康状態を把握することができれば、多くの人々が健康管理に取り組みやすくなるはずです。

シスメックスは2006年度に健康管理支援サービス「タッチで続ける健康日誌」を開発しました。これは、健康管理支援ソフトウェア「プロウェル」を搭載したタッチパネル式の端末と、血圧計などの検査機器を組み合わせたもので、一般の人が自分で操作でき、手軽に健康状態をチェックすることができます。

「プロウェル」とは、「プロフェッショナル(専門家)による

「タッチで続ける健康日誌」の構成例

- ① 体脂肪計
- ② ヘモグロビン推定器
- ③ 血圧計
- ④ タッチパネル式端末
- ⑤ プリンター
- ⑥ 脈波計



利用のステップ

基礎情報の入力

- ・性別 ・年齢
- ・体重 ・ウエストサイズ など

各種測定—— 腕や指を置くだけで

- ・血圧(最高血圧・最低血圧)
- ・ヘモグロビン推定(ヘモグロビン推定値)
- ・体脂肪(体脂肪率・内臓脂肪断面積指数・基礎代謝量)
- ・脈波(血管年齢)

設問に回答—— 選択肢にタッチするだけで

- ・自覚している体の調子について
- ・いままでに指摘されたこと
- ・生活習慣について
- ・日頃の食事について(栄養摂取状況)

健康支援結果がプリントアウト

- ・総合コメント ・不足栄養素
- ・各種測定値 ・生活改善情報



健康管理支援サービス「タッチで続ける健康日誌」

ウェルネス(健康)」の略です。開発にあたって、医学・栄養学・運動栄養学などの専門家による監修を受けたことで、根拠のある健康支援情報を提供できる点が特長です。

サービスの利用者は、まず性別や体重などの基礎情報を入力し、次に血圧やヘモグロビン推定値などを測定します。最後に生活習慣や栄養摂取状態などに関する設問にタッチパネルで回答すると、入力・測定されたデータが自動的に分析され、生活改善の参考になる健康支援情報が提供されます。入力開始から約5分という短時間で結果を受け取ることができます。

なお、血圧が高血圧の診断基準を超えていた場合など、異常な数値が測定された場合には、医師の診察を促すメッセージが表示されます。

「タッチで続ける健康日誌」は、日本各地のドラッグストアや調剤薬局などで導入が進んでいます。測定データや健康支援情報に基づいて、薬剤師や栄養士による健康相談会を実施する店舗も増えています。

利用者の声を活かして継続的にサービスを改善

また、設問の表現を一般の人々にとって、さらにわかりやすいものとするなど、サービスの使いやすさの改善にも取り組んでいます。



ドラッグストア タキヤ 太子橋店



調剤薬局 プライマリーファーマシー

改善にあたっては、管理栄養士の資格を持つ従業員が、このサービスを提供している店舗を定期的に訪問し、利用者の方々に直接ご意見を伺い、その要望を反映させています。さらに、訪問時には、稼働状況を確認するとともに、店舗スタッフへの教育支援も実施しています。

今後は、学校やフィットネスクラブなどへの普及も図り、日常的な健康管理を、いっそう身近なものにしていきます。

ステークホルダーの声

健康管理に関心をお持ちの お客様が増えています

タキヤ株式会社 太子橋店 店長

野口 清様



最近、当ストアにお越しになるお客様は、健康管理や病気の予防に対して高い意識をお持ちの方が多くなっています。薬だけでなく、サプリメントなどをお求めになる方も増えています。ドラッグストアの使命は、そのようなお客様のニーズに応えるための商品とサービスを提供し、近隣の方々の健康の維持管理に役立つことと考えています。

「タッチで続ける健康日誌」は健康状態を数値的に把握できるため、客観的なデータを参照しながらお客様のご相談に応じることができ、非常に有用であると感じています。今後も、いっそう簡便かつ迅速にデータが測定できるハード、ソフトの提供をお願いしたいと思います。

ステークホルダーの声

「健康支援ステーション」 を目指しています

プライマリーファーマシー 代表取締役

薬剤師 山村 真一様



「タッチで続ける健康日誌」をご利用いただいたお客様の多くは、薬の処方待つ間に保険薬局でここまでの健康チェックができることに驚きを感じていらっしゃるようです。また、当施設ではチェック結果を踏まえて管理栄養士によるアドバイスを提供していますが、お客様から感謝の言葉をいただくことも多く、手ごたえを感じています。

今後も、薬を提供するだけでなく生活習慣に関する情報を発信し続け、地域の方々の健康づくりをサポートしていきたいと思っています。「タッチで続ける健康日誌」は、保険薬局が「健康支援ステーション」となるための有効なツールであると感じています。

活動レポート

世界中の人々に健康と安心をお届けするために

China

検体検査の 迅速化・精度向上や、 医療従事者の 技術・知識レベル 向上に貢献

シスメックスは、中国で検体検査機器を販売し、その普及を図ることで検査の迅速化や精度向上に寄与しています。さらに、最新の医療情報を提供する学術セミナーを毎年開催し、医療従事者の技術・知識レベル向上への貢献を目指しています。

医療体制の整備が進む中国で 迅速で高精度な検体検査の普及に貢献

近年、急速な経済成長を遂げている中国では、例えば糖尿病の患者数が約2,400万人にまで増加し、インドの約3,600万人に次いで世界第2位となるなど、医療ニーズが高まっており、体制の整備が急がれています。

そうした中で、診断や治療の根拠となるデータを提供する検体検査についても、その迅速化や精度の向上が求められています。中国では、いまだ多くの医療機関で手作業で検査が実施されています。自動化された検査機器を導入すれば、迅速かつ精度よく検査を実施でき、速やかに診断・治療を進めることができるのです。

シスメックスは、1995年に検体検査機器・試薬の販売会社・済南東亜医用電子有限公司(現 シスメックス・上海)を設立して中国で事業活動を開始しました。それ以降、販売拠点などの拡充を進め、検体検査機器や試薬の普及を通じ、検査の迅速化・精度向上への貢献を目指してきました。

また、販売後も、長期にわたって信頼性の高い検査データを提供できるよう、きめ細かいアフターサービスを実施してきました。

公正な取引を徹底するために、 従業員への研修を実施

また、シスメックスでは、中国における製品の販売量が増加する中で、公正な取引を促すためのハンドブックを作成して従業員に配布するなど、販売活動におけるコンプライアンスの徹底に取り組んでいます。

2009年10月には、シスメックス・上海において、研修を実施しました。同社の市場部・販売部に在籍する従業員約60名を対象として、中国の「反不正当竞争法」と「反独占法」についてあらためて説明しました。

大規模な学術セミナーを開催し、 最新の医療情報を発信

シスメックスは製品の販売を通じて信頼性の高い検査の普及に貢献するだけでなく、学術情報の発信にも注力し、中国の医療従事者の技術・知識レベル向上への貢献を目指しています。

「シスメックス中国学術セミナー」もこうした活動の一つです。このセミナーは、医師や看護師、検査技師などを対象として、毎年1回開催しているもので、その時々での中国の医療制度の改革状況なども踏まえて、最新の情報を提供しています。

2009年11月には、雲南省の昆明において第12回となるセミナーを開催し、「臨床と検査室の対話」をメインテーマにパネルディスカッションや講演を実施しました。約700名の方々に参加いただき、企業が単独で開催する医学系セミナーとしては、中国で最大規模となりました。参加者の皆様からご好評をいただくとともに、社会からも注目を集め、現地の科学新聞「科学時報」にも紹介されました。

これからもシスメックスは、内容を充実させながら、継続してこのセミナーを開催し、中国の医療従事者の方々に対して有用な学術情報を提供し続けていきたいと考えています。

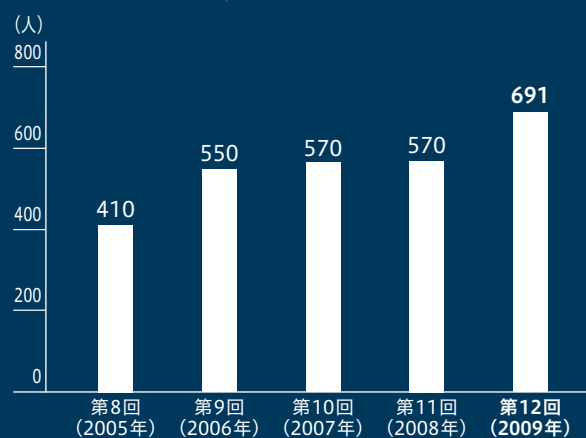


第12回中国学術セミナー



第12回中国学術セミナーでの社長スピーチ

第8回～第12回シスメックス 中国学術セミナー参加人数推移



ステークホルダーの声

診断・治療と検査の「架け橋」 としての役割に期待します

中国人民解放軍総医院 主任医師
丛玉隆 (Cong Yulong) 様



私は、中国のどこで検査をしても同じデータが得られ、的確な診断を受けられることを目標に、中国検査学会の主任委員として、検査の標準化を推進してきました。

私の専門は、臨床検査の中でも、血液、凝固、尿に関するものであり、シスメックスの製品ラインアップと同じだったため、学会

活動や共同研究などでシスメックスの方々と一緒になる機会が多くあり、検査の標準化、検査の啓発などに協力して取り組むようになりました。そうしたご縁から第1回から第12回までシスメックスの中国学術セミナーの企画委員を担当させていただきました。

シスメックスの中国学術セミナーは、12年間にわたって、医療従事者が求めている情報を提供し続けてきました。これからも医療への貢献を目指して継続して実施していただきたいと思っております。最新の学術情報を発信し、診断・治療と検査との「架け橋」となっていくことを期待しています。

活動レポート

世界中の人々に健康と安心をお届けするために

Asia Pacific

フィリピンで、検査室の 品質マネジメント システム構築を支援

フィリピンやインドネシアでは、多くの病院が患者様からの信頼を獲得するために検査室の質の向上を図っています。シスメックスは検査室の品質マネジメントシステムの国際規格ISO15189※の認定取得支援サービスを提供し、こうしたニーズに応えています。

※ 2003年2月に国際標準化機構 (International Organization for Standardization: ISO) によって定められた規格。正式名称は、ISO 15189:2003「臨床検査室 - 質と適合能力に対する特定要求事項」。

検査室の質を維持・向上させていくために

臨床検査の質を高めていくためには、検査業務の適切な手順を確立するとともに、内部監査などの体制を構築する必要があります。また、こうしたしくみに対して、第三者機関から客観的な評価を得ることが重要です。

そうした中で注目を集めているのが、臨床検査室に特化した品質マネジメントシステム規格ISO15189です。一般的な品質マネジメントシステムの規格であるISO9001をベースとして、検査室が実施する臨床検査の種類に応じた技術能力に関する要求事項などが加わった規格です。この規格に則ったマネジメントシステムを構築し、認定を受けた検査室は「国際的に通用する有効な検査データを提供できる能力がある」と認められたこととなります。制定以来、ISO15189は先進国を中心に世界各国で広く受け入れられています。

東南アジアで高まるISO15189の 認定取得ニーズに応えるために

フィリピンやインドネシア、ベトナムでは、検査室の業務に関する国レベルの規制が存在しないため、官民の大規模病院の多くは、国際規格であるISO15189の認定取得に注目し始めています。しかし、この規格は、その要求事項が難解なことで知られており、認定には困難がともないます。

シスメックスは、2003年度から日本で、このISOの認定取得を支援するサービスを提供しています。今までに、北海道



NKTI 試験所品質役員 (左) と薬品試験所所長 (右)、ISO15189 の認定書の前で

大学病院や東京大学医学部付属病院など多くの病院を支援してきました。

フィリピンの病院の認定取得を支援

そして2009年度には、これまで日本で培ってきたノウハウを活かして、東南アジアの国々でも認定取得支援サービスの提供を開始しました。シンガポールのグループ会社、シスメックス・アジアパシフィックが中心となって、フィリピン国立腎臓

ISO15189 認定取得支援例

活動準備

・プロジェクト設置支援 ・ ISO規格説明会 ・ 業務分析支援

書類作成・環境整備

・文書作成支援 ・ システム運用支援 ・ 内部監査員養成セミナー
・内部監査/マネジメントレビュー支援 ・ 申請書類準備支援

認定取得 ・ 審査支援

維持 ・ 内部監査員養成/内部監査員スキルアップ支援

移植研究所(NKTI)に対してコンサルティングやサポートを実施し、同研究所は、無事、認定取得に成功しました。

NKTIでは、すでにISO9001の認証を取得していたため、主にISO15189独自の要求事項を満たすための支援を実施しました。

支援にあたっては、まずNKTIを訪問して検査室の現状やワークフローなどを調査しました。それによって課題を抽出し、「故障中の装置を識別できるようにすること」などを改善点として指摘しました。また、ISO9001のマニュアルとの混同を避けるために、ISO15189用のマニュアルを別途作成することを提案し、そのテンプレートも提供しました。

2010年度には、インドネシアなど他の東南アジアの国々やブラジルでもISO認定取得支援サービスの提供を開始する予定です。シスメックスは、世界中で検査室の質の向上に貢献していきます。

ステークホルダーの声

検査室の質の向上に大いに役立ちました



フィリピン国立腎臓移植研究所
薬品試験所所長
Januario Veloso様



同研究所
試験所品質役員
Ivy Rosales様

シスメックスから提供されたテンプレートを使用することで、スムーズにISO15189用マニュアルを作成することができました。また、検査室の訪問調査を通じて提案いただいた作業手順改善のための指摘は、私たちの検査室の質を向上させるのに大いに役立ちました。

また、ネットワークを通じてサポートを受けられるSNCS(シスメックス・ネットワーク・コミュニケーション・システムズ)も、検査の信頼性維持に大いに役立っています。

私たちはシスメックスの検査機器を使用していますが、今後も継続して機器の作動状態を良好にしてもらい、信頼できる試薬を安定的に提供いただくことを期待します。



フィリピン国立腎臓移植研究所(NKTI)



NKTIの検査室

活動レポート

世界中の人々に健康と安心をお届けするために

Americas

アメリカ合衆国で、 血液がんの研究助成 などに取り組む NPOの募金 キャンペーンに 従業員が積極参加

白血病や悪性リンパ腫などの血液がんの発生数は、世界的に増加傾向にあります。シスメックスのグループ会社シスメックス・アメリカでは、2010年、血液がんに関する研究助成や患者支援などを実施しているNPO「白血病・悪性リンパ腫協会」の募金キャンペーンに従業員ボランティアが積極的に参加しました。

治療法研究の進展にともなって 治癒率が向上してきた血液がん

白血病や悪性リンパ腫などの血液がん患者は、世界中で約90万人以上に上るとされています。世界中で、およそ4分に一人が新たに血液がんと診断されており、シスメックスのグループ会社シスメックス・アメリカがあるイリノイ州でも、2009年の1年間で新たに約6,000名が血液がんと診断されました。発生数も増加傾向にあります。

しかし、その一方で、治療方法が進歩したことによって治癒率は向上しつつあります。寄付などを通じて血液がんの研究を支援しているNPOの存在も、治癒率向上に貢献しています。

こうしたNPOの中でも最大の規模を誇る「白血病・悪性リンパ腫協会(LLS: The Leukemia & Lymphoma Society)」は、



中心となって活躍した従業員ベギー・バーランコさん
(チャリティーオークションに出品された品物の前で)



ランチバイキング

アメリカ合衆国とカナダに64の支部を持ち、1949年の設立以来、血液がんの研究に6億ドル以上を提供して治療方法の進歩を支えるとともに、患者様の支援などに取り組んできました。

従業員がボランティアで さまざまなチャリティーイベントを実施

2010年3月から5月にかけて、シスメックス・アメリカでは、ベギー・バーランコさんを中心とする従業員ボランティアが、LLSの募金キャンペーン「イリノイ・マン&ウーマン・オブ・ジ・イヤー」に参加しました。

このキャンペーンは、参加者が独自に募金活動を企画・実行し、集まったお金をLLSに寄付するものです。特に優れた成果を挙げた者は、「マン・オブ・ジ・イヤー」「ウーマン・オブ・ジ・イヤー」として表彰されます。

シスメックス・アメリカでは、まず「イリノイ・マン&ウーマン・オブ・ジ・イヤー」のWebサイトで、広く社内外の人々に寄付を呼びかけました。そして、社内でランチバイキングやピザ&アイスクリーム販売、古本フェア、チャリティーオークション、購入した者がジーンズで出勤できる権利を得るジーンズデーチケットの販売などを実施しました。



ペギーさんと、その活動を支援したシスメックス・アメリカの従業員たち

その結果、キャンペーン期間中の2010年3月11日から5月21日までに、寄付とイベントの収益をあわせて4万1,907ドルを集めることができました。

地域社会に貢献する企業として 「カンパニーズ・ザット・ケア・アワード」を受賞

シスメックス・アメリカは、このLLSの募金キャンペーンをはじめとして、さまざまな募金活動に積極的に協力しています。

2009年度には、こうした活動などが評価され、社会貢献活動や働きやすい職場づくりなどに積極的に取り組んでいる企業に与えられる「カンパニーズ・ザット・ケア・アワード」（主催：アメリカ合衆国のNPO「カンパニーズ・ザット・ケア」）を受賞しました。2008年度に引き続き、2回目の受賞となります。

シスメックスは今後も、従業員の自発的な取り組みを応援しながら、地域の事情や実情にあわせてさまざまな社会貢献活動を推進していきます。

ステークホルダーの声

募金キャンペーンは、大成功を収めました



白血病・悪性リンパ腫協会
キャンペーンマネージャー
Kayla Kovarna様
(写真中央)

参加者の活躍によって、白血病・悪性リンパ腫協会が実施した2010年の募金キャンペーンでは、約64万ドルを集めることができました。このお金は、血液がんの研究と患者様の支援に活かされます。

ペギーさんを含むキャンペーン参加者が仲間と協力しながら休みなく取り組んだからこそ、大きな成果を挙げることができたのだと思います。がんの無い世界をつくるために力を貸してくださった参加者、そして彼らの支援者、スポンサーの方々を称賛したいと思います。

活動レポート

世界中の人々に健康と安心をお届けするために

Europe

乳がん患者様の QOL向上に寄与する 検査システムの 普及を推進

シスメックスは、乳がんのリンパ節転移を自動で判定できるシステムを開発し、その普及に努めています。これまでの顕微鏡による病理組織検査よりも、迅速かつ高精度に転移の有無を判定できることから、患者様のQOL(Quality of Life:生活の質)の向上に貢献しています。

乳がんのリンパ節転移を 迅速かつ高精度に発見するために

乳がんは女性にとって最も多いがん種です。毎年、世界で新たに約100万人が乳がんと診断され、年間の死亡者は、約40万人に上ります。

かつての乳がんの手術では、最も転移しやすい脇の下のリンパ節をすべて切除していました。しかし切除する部分が大きいため、患者様にとって大きな負担となっていました。

そこで近年では、できるだけ切除範囲を小さくするために、病巣のがん細胞が最初にたどりつくリンパ節を手術中に採取して転移の有無を検査し、必要な部分だけを切除する手法がとられています。検査方法として最も一般的なのは、病理医が採取したリンパ節の一部を顕微鏡で観察する手法です。



乳がんリンパ節転移迅速検査システム

- 特長 1 感度が高く、リンパ節の大部分を用いるため、がん転移の有無を高精度に判定可能
- 特長 2 短時間で検査結果が出るため、手術中に検査が可能
- 特長 3 自動化によって、判定に個人差がない



遺伝子増幅検出装置「RD-100i」



遺伝子増幅検出試薬「リノアンブ®BC」



検体可溶化試薬「リノアグ®」

サンプルをセットして約30分で判定結果が得られる

しかし、手術中の限られた時間で転移の有無を正確に判定することは非常に困難で、病理医には高い技術と経験が求められます。また、手術後に詳しく検査して初めて転移が見つかる場合もあり、そういう時は、もう一度手術をする必要があるため、患者様にとって大きな負担となります。

患者様のQOL向上に貢献

こうした状況を受けて、シスメックスはOSNA[®](One-step Nucleic Acid Amplification: 直接遺伝子増幅)法による乳がんリンパ節転移迅速検査システムを独自に開発しました。このシステムは、遺伝子増幅検出装置「RD-100*i*」と遺伝子増幅検出試薬「リノアンプ[®]BC」、検体可溶化試薬「リノアーク[®]」から構成されます。まず、採取したリンパ節の大部分を可溶化試薬で溶かしてサンプルを作成します。このサンプルと試薬を装置にセットすれば、約30分で結果を得られるので、手術中に転移の有無を判定できます。

遺伝子の抽出・増幅、そして転移の判定までが自動でなされるため、検査する病理医の負担は大きく軽減されます。また、採取した組織の大部分を使用し、遺伝子レベルで測定するため、

高精度な判定ができ、再発リスクの低減に貢献します。さらに、手術後に転移が発見されることも少なくなると期待されるため、再手術にともなう患者様の負担を軽減することにもつながります。

日本では2008年度に厚生労働省から認可を受けました。同年11月には保険適用され、現在、全国の病院に導入されつつあります。一方、日本に先駆けて2006年度に発売した欧州では、スペイン、イタリア、フランス、イギリスなどの病院で採用が進んでいます。

迅速かつ適切なアフターサービスとサポートを提供するために

2010年1月には、欧州の中でも特に普及が進んでいるスペインのバルセロナに、現地法人シスメックス・エスパーニャを設立しました。乳がんリンパ節転移迅速検査システムを導入いただいたユーザーの近くで、迅速かつ適切なアフターサービスとサポートを提供するのが目的です。

今後、スペインでは、シスメックス独自のオンライン・データベースを開発・提供する予定です。このデータベースを通じて、ユーザーである各医療機関・検査施設どうしがOSNA[®]法に関する知識や、その他の技術情報を参照しあえるようになります。これによって情報交換が活発化すれば、乳がんに関する現地の医療レベルの向上に寄与できるはずですが、この乳がんデータベースを他の国々に導入することも検討しています。

シスメックスは、今後も同システムの普及に取り組み、世界中の患者様のQOL向上への貢献を目指します。

検査の流れ

手術中にリンパ節を摘出する

摘出したリンパ節の大部分を検体可溶化試薬「リノアーク[®]」で溶解し、サンプルを作成する

サンプルと遺伝子増幅用試薬「リノアンプ[®]BC」、遺伝子増幅検出装置「RD-100*i*」の所定の位置にセットする

自動的に遺伝子が抽出・増幅され、転移の有無が判定される



検体可溶化試薬「リノアーク」が入ったチューブに摘出されたリンパ節を投入

ステークホルダーの声

OSNA[®]法による検査結果は非常に満足できるものです

ローマがんセンター
Di Filippo様



欧州の国々では、主にマンモグラフィによる乳がん検診の精度が向上してきたことや、外科手術、放射線治療、化学単剤療法など、さまざまな治療法を選択できるようになったことで、乳がんによる死亡は減少しています。しかし、発生率自体は絶えず増加しています。

私たちの病院では、シスメックスの乳がんリンパ節転移迅速検査システムを手術中の診断に使用しています。すでに400人以上の乳がん患者様をこのシステムで検査してきました。これまでに得た結果は非常に満足できるものです。今後も、OSNA[®]法の研究を進めいただき、乳がん以外にも、メラノーマ(悪性黒色腫とも呼ばれる皮膚がんの一種)などを検査できるシステムを開発していただくことを期待しています。

活動レポート

世界中の人々に健康と安心をお届けするために

Europe

チェコに エデュケーション センターを設立し、 お客様の検査技術・ 学術知識の 習得を支援

シスメックスは、お客様の検査技術・学術知識の向上を支援するための研修・教育施設を各国に設置しています。2009年度にチェコに設置したエデュケーションセンターにおいても、現地の関連学会や医療機関などと連携して充実した研修・教育を提供しています。

欧州・中東・アフリカ地域の 研修・教育を統括するシスメックスアカデミー

精度の高い検査を実現するためには、施設や機器を整備するだけでなく、それらを扱う人々が高い技術や学術知識を備えている必要があります。

ドイツにあるシスメックスのグループ会社シスメックス・ヨーロッパでは、お客様や従業員に対する研修・教育を実施する機関としてシスメックスアカデミーを設置しています。

お客様に対しては、それぞれのニーズやレベルにあわせてオーダーメイドで内容をお選びいただける教育プログラムを用意しています。さまざまな学術的な知識を学ぶことも、実機を使ったトレーニングを通じて各種検査機器の操作技術を習得することも可能です。また、製品の製造から販売、サービスにいたるまでの全プロセスでお客様に満足を提供するために、従業員に対する研修も実施しています。



チェコエデュケーションセンターでの研修風景



チェコエデュケーションセンター

シスメックス・ヨーロッパが統括する地域は、欧州・中東・アフリカと広範囲に及ぶため、ドイツのシスメックスアカデミーにお越しいただくことが難しいお客様もいらっしゃいます。こうした方々にも研修・教育をご提供するための施設として、各国にエデュケーションセンターを設置しています。これまでに、イギリス、フランス、ロシア、スイス、オランダ、ベルギー、アラブ首長国連邦、ベナン、南アフリカなどに設置してきました。

シスメックスアカデミーは、欧州・中東・アフリカ地域における研修・教育のレベルを標準化する役割も担っており、これら各国のエデュケーションセンターで指導者・教育者として活躍できる従業員の教育にも力を入れています。

チェコにエデュケーションセンターを開設し 東欧地域の検査水準の向上に貢献

2009年7月には、シスメックスアカデミーの支援のもと、グループ会社シスメックス・チェコがエデュケーションセンターを開設しました。

お客様に対して検体検査に関する総合的な教育を提供することを目指し、センターには最新の各種検査機器を用意して性能や操作方法をご説明しています。また、血液学など



検査機器を備えた研修室(チェコエデュケーションセンター)

の専門的な知識を持つスタッフを配置し、検査データの読解方法などを教えています。これらの活動は、その内容が評価され、国からCME(Continuing Medical Education: 医療生涯教育)として正式に認定を受けています。

また、チェコ血液学会などの関連学会と連携して、内容の充実を図っています。今後は、お客様に常に興味を持っていただけるよう、半年ごとに新しいテーマの研修プログラムを作成・提供していく予定です。

シスメックス・チェコでは、お客様の機器と同社のサーバーをインターネットでつないで検査の精度管理などを実施するSNCS(シスメックス・ネットワーク・コミュニケーション・システムズ)サービスを提供しています。エデュケーションセンターでは、お客様から送信いただいた検査データを分析し、専門的なアドバイスや解説を提供する役割を担っています。

今後もこうした活動を継続することで、チェコだけでなく東欧地域のお客様との信頼関係を強化しながら現地の検査水準の向上に貢献していきます。

ステークホルダーの声

専門家の経験を聞くことができる点が素晴らしい

フラデツ・クラロペー大学病院
Filip Vrbacky様



正確な検査結果を得るためには、精度の高い検査装置に加えて、熟練したスタッフが必要です。その点で、わが国にシスメックスのエデュケーションセンターが開設されたことは、とても意義のあることだと思います。

このセンターでは、シスメックス製品について、どんな質問をしてもすぐに回答してもらえるため、非常に助かっています。また、センターのスタッフの中には、血液学の専門家もいるので、彼らの意見を聞くことができる点も素晴らしいと思います。

サービスやサポートに関しても、シスメックス・チェコが設立されてから、どんどん良くなっていると思います。今後も機器の改良やサポートの充実に取り組んでいただくことを期待します。

活動レポート

世界中の人々に健康と安心をお届けするために

Africa

ケニアでHIVの感染拡大防止に取り組むNPOに検査機器を寄贈

世界的な課題であるHIVの感染拡大防止に貢献するために、シスメックスは、特に感染が深刻なアフリカで検査機器の寄贈を続けてきました。2010年度には、ケニアで診療活動をするNPOへの支援を開始しました。

世界のHIV感染者数の3分の2が集中するサハラ以南のアフリカ

世界のHIV感染者数は、全世界で3,000万人を超え、さらに増え続けています。その多くは発展途上国の人々であり、特にサハラ以南のアフリカには、全体の約3分の2に当たる2,000万人以上の感染者が存在しています。

HIV感染者は、健康状態をチェックするために数カ月ごとに検査を受け、血液中のウイルスの状態をモニタリングする必要があります。この検査では、体の免疫全体を調整する働きを持つ白血球の一種「CD4陽性リンパ球」を測定します。ウイルスが増殖すると、このリンパ球が破壊され数が減少するため、感染者の免疫力が低下するのです。基準値以下になると感染者は投薬治療を始める必要があり、その効果を見るためにも同様の検査を実施します。

しかし、サハラ以南のアフリカ各国では、いまだに検査機器が十分普及しているとはいえません。そのため、HIV感染者の多くは、自宅から遠く離れた病院に検査を受けに行き、後日また結果を聞きに戻って来る必要があり、非常に不便です。身近な場所で検査が受けられて、すぐに結果がわかり、その場で適切に指導・処置できる診療体制が求められているのです。

ケニアで無料診療などに取り組むNPO「イナダ・ラングエイズ研究財団」

アメリカ合衆国を本拠地とする「イナダ・ラングエイズ研究財団」は、こうした課題を抱える国の一つであるケニアでHIVの感染拡大防止に取り組んでいます。

同財団は2000年から、ケニアの首都ナイロビ近郊のプムワニ地区で、年2回ボランティアの医療キャンプを開き、無料診療を提供してきました。診療を受けた人の数は、2009年11月までにのべ約27,000名にも上ります。さらに同財団では、現地NGOへの教育・訓練や医療従事者への講義なども実施しています。

財団の活動を支援し、HIVの感染拡大防止に貢献

シスメックスは2006年4月、小さな病院や自動車巡回移動診療所でも使っていただけるコンパクトで使用方法も簡単な多項目自動血球計測装置「pocH-100*i*」を利用して「CD4陽性リンパ球」を測定する方法を発表しました。以降、NPOを通じた寄贈活動を継続しており、2009年までに、南アフリカ、ボツワナ、ベナンなどアフリカ9カ国の病院や研究機関に寄贈してきました。

2009年春、イナダ・ラングエイズ研究財団は、薬剤耐性HIV/エイズの出現を防止するための新プロジェクトに取り組むため、ナイロビ郊外に常設のオフィスを開設しました。シスメックスは、同財団がこのプロジェクトで使用するために、場所をとらず、簡便にCD4陽性リンパ球を測定できる装置を必要としているという情報を得て、「pocH-100*i*」を寄贈することを決定しました。

2010年5月には、ドイツのグループ会社シスメックス・ヨーロッパを通じて、同財団のオフィスに「pocH-100*i*」を設置することができました。現在、同財団は、できるだけ早期に診療所を建設し、現地の医療体制を整備していくことを計画しています。



イナダ・ラングエイズ研究財団に寄贈された
多項目自動血球計数装置「pocH-100i」



稲田医師による診察

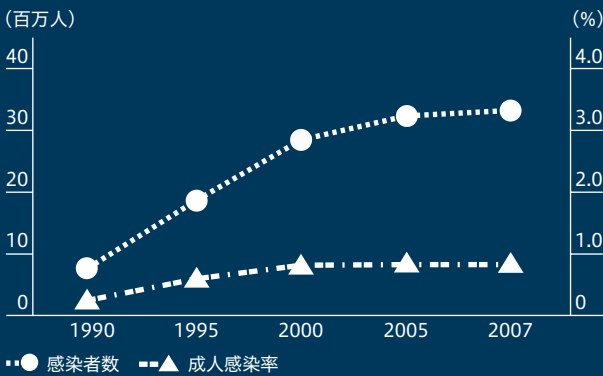


ケニア・ナイロビの街角



診療を待つ人々

世界のHIV感染者推計数



出典：(財)エイズ予防財団「世界のエイズの流行に関する報告2008」

ステークホルダーの声

医療関連企業からの 支援が非常に重要です

イナダ・ラングエイズ研究財団 代表
稲田 頼太郎様



「pocH-100i」のような、短時間で結果を得られ、その場で診断につながる評価ができる機器は、患者さんへの適切な指導を可能にする存在であり、紛れもなく診療の質の向上につながると思われます。

感染拡大を防止するためには、患者さんや感染リスクの高い方々の近くに、いつも医療スタッフがいることが重要です。現状では、こうした役割を果たしているのは、主にボランティアの方々です。そのような状況にあって、特に医療関連企業には、こうした人々、なかでも現地の人々を雇用するための支援を期待したいと思います。

また、医療関連企業には、本当に機器を必要としているところから申請を募り、寄贈の是非を判断するような機会を積極的に設けて欲しいと思います。

社会から信頼と期待を獲得するために

シスメックスは、経営の健全性・透明性を高め、経営効率と経営スピードを向上させることで、グループ全体の企業価値の最大化を図っています。
また、「正々堂々とした事業活動」を追求し、グローバル社会からの信頼獲得に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

経営の健全性と透明性を高め、 経営効率を向上させるために

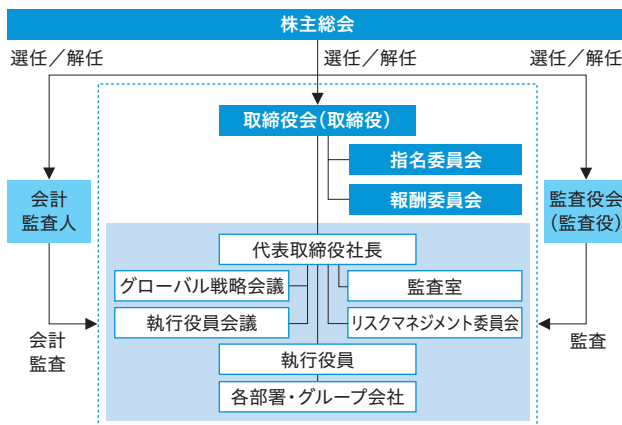
シスメックスは、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題の一つとして位置づけています。経営の健全性と透明性を高め、経営スピードと経営効率を向上させることが、グループ全体の企業価値の最大化につながると考えています。

取締役会は取締役8名で構成し、経営に関する重要事項を審議しています。当社は監査役制度を採用しており、社外監査役2名を含む4名で構成する監査役会が、独立的な立場から客観的に取締役の職務遂行を監視しています。

2005年4月から、業務執行の意思決定スピードをいっそう高め、事業環境の変化に迅速に対応できるよう、執行役員制度を導入しています。社長の意思決定のための諮問機関として執行役員会議を設置し、グループの業務全般の重要事項を審議しています。執行役員は14名で、うち取締役兼任が7名です。また、委員会設置会社と同様の役割を持つ指名委員会と報酬委員会も設置しています。

また、ステークホルダーの立場を尊重するために、内部者取引管理規程や、個人情報保護規程、コンプライアンス規程、臨床研究開発に関する倫理規程など、さまざまな規程を制定しています。

コーポレート・ガバナンス体制



内部統制

財務報告の適正性を確保するために

2008年11月に「財務報告に係る内部統制管理規程」を制定するとともに、社長の諮問機関として「財務報告に係る内部統制委員会」を設置し、グループ全体の内部統制システムの構築に取り組んでいます。

財務報告に関わる業務のグループ全体での標準化を進めており、2009年度には、その一環としてERP※システムの再構築に取り組みました。今後も、継続的に現状を見直し、改善することで、さらに効果的な内部統制システムを整備していきます。

※ ERPとは、「Enterprise Resource Planning (企業資源計画)」の略で、企業全体を経営資源の有効活用の観点から統合的に管理し、経営の効率化を図るための手法・概念のことです。

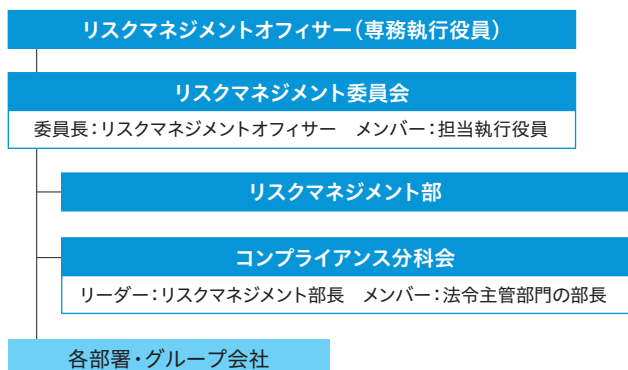
リスクマネジメント

委員会を設置してリスクマネジメントを推進

グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として、最高責任者「リスクマネジメントオフィサー」(専務執行役員)を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置しています。

2009年度は、同委員会が中心となって強毒性の新型インフルエンザへの対応を進め、「行動計画」「労務上の対応」「感染予防品の備蓄」などについて定めた「新型インフルエンザ対応基準」を策定しました。

リスクマネジメント体制



コンプライアンス

「正々堂々とした事業活動」を追求

シスメックスは、コンプライアンスを「法令遵守とともに高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」であると定義しています。この定義に基づいて、役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールをまとめた「コンプライアンスコード」を制定しています。同コードは英語、中国語、ドイツ語に翻訳して海外グループ会社にも適用しており、グループの全従業員から同コード遵守の誓約書を提出させています。

教育については、海外グループ会社を含む全グループ会社でコンプライアンス研修を実施しています。また、国内グループの従業員には、「コンプライアンスハンドブック」を配布しています。



コンプライアンスハンドブック



コンプライアンス研修



コンプライアンスコード (抜粋)

1. お客様への安全と安心の提供
2. 公正な取引と自由な競争の推進
3. 公平・適正な情報開示と情報管理の徹底
4. 知的財産権の尊重
5. 国際的な平和と安全の維持
6. 適正な会計処理と納税の実施
7. 人権の尊重と安全・衛生の向上
8. 公私のけじめと利益相反行為の禁止
9. 社会との健全な関係の保持
10. 地球環境の保護

2006年4月制定

海外グループ会社の内部通報制度の整備も推進

国内グループ向けの内部通報制度「カンパニユライン」は、社内・社外の2つの窓口で、電話、文書、電子メールを通じて相談や通報を受け付けています。寄せられた情報は匿名で取り扱い、相談・通報者の個人情報を守っています。

また、海外グループ会社でも内部通報制度の整備を進めており、2010年5月現在39社中35社で設置を完了しています。

研究倫理の遵守

シスメックス(株)は、臨床研究やヒトゲノム・遺伝子の解析研究に取り組む企業として、「人間の尊厳の尊重」「個人情報の保護の徹底」などを基本方針とする「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析に関する倫理規程」を定め、法律・科学の専門家などの社外委員をメンバーに含む「研究倫理審査委員会」を設置し、研究内容を審査しています。

委員名簿や議事録は当社Webサイトなどで公開し、透明性を確保しています。

腐敗防止のための教育を推進

シスメックス(株)は、2008年度に、贈賄などの不適切な行為を防止し、取引の公正性を確保するための行動基準を定めた「シスメックスプロモーションコード(SPC)」を策定しました。また「教育指導」「調査」「監査」を担当する3つの部会を持つ「公正な取引推進委員会」を設置しました。

2009年度は、国内グループ会社も含む販売・サービス部門や公的機関と接する研究開発部門などの従業員を対象とする教育を計21回実施し、339名が受講しました。また、啓発冊子の配布やポスターの掲示、イントラネット上への問い合わせセンター開設なども実施し、周知・理解の徹底に努めました。

SA8000※の認証取得を目指して

グループ会社シスメックス・ブラジルは、2008年度から労働者の基本的人権の保護に関する国際規格SA8000※の認証取得を目指し、従業員に対する説明会などに取り組んできました。

2009年8月には、取引先にも規程・基準の遵守をお願いするために、主要取引先を対象とする説明会を開催しました。

※ SA8000: 国際労働機関(ILO)の諸条約や、「世界人権宣言」、「国連子どもの権利条約」に基づいて米国のCSR評価機関が策定した国際的な規格。

期待を超える品質と満足を追求

シスメックスは、製品・サービスの品質をさらに高めるとともに、お客様の安全や使いやすさに配慮し、安心して使用いただくためのしくみづくりに精力的に取り組んでいます。

「お客様が真に求めるものが何か」を追求め、ご期待を超える満足を提供することを目指していきます。

品質の確保

品質方針

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. お客様のニーズを把握し、お客様の期待を超える製品やソリューションを提供します。
2. 品質とは顧客満足であるという認識のもと、お客様の立場に立って行動します。
3. お客様に安心していただくために、徹底した品質保証とあらゆる業務における質の向上に努めます。
4. 独創的な新しい技術とナレッジによって、新たな価値を創り続けます。
5. 使用される国または地域の法令、規格等を遵守し、安全な製品を提供します。
6. 品質マネジメントシステムの有効性を維持するとともに継続的な改善を図ります。
7. 品質方針から品質目標を設定し、目標達成に向けて計画的に取り組めます。

2007年5月制定

グローバルな品質マネジメントシステムの構築

2010年3月末現在、グループ全40社中23社で品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得しています。なお、開発、生産機能を持つ会社は、すべて取得済みです。

2009年度には、製品実現プロセスの主要部を占める設計、開発、製造部門を重点的に監査するよう内部品質監査を計画し、予定通り実行しました。また、海外展開を急速に進める中でも、品質の確保が疎かにならないようとの考えから、海外のグループ会社も含め、全グループ会社を対象とする「シスメックスコーポレーション品質コンプライアンス方針」を新たに策定しました。この中で、品質を維持し、顧客満足を得るために遵守すべき法規制や社内ルールをあらためて確認するとともに、それらを遵守するための体制と活動を明確にしました。同時に、これらが確実に実行されていることを確認するためのグローバルな内部監査の手順を策定しました。

グローバルな品質保証のしくみを強化

臨床検査で用いられるシスメックスの製品は、人々の生命と健康を守るうえで極めて重要な役割を果たしています。そこで、シスメックスは、製品の設計・開発段階において、世界各国の安全規格を満たすことはもちろん、さまざまなしくみを構築して、製品品質の維持・向上を図っています。新製品の開発においては、市場に導入するまでのプロセスにおいて5つの「クオリティ・ゲート」を設けて品質を確認しています。

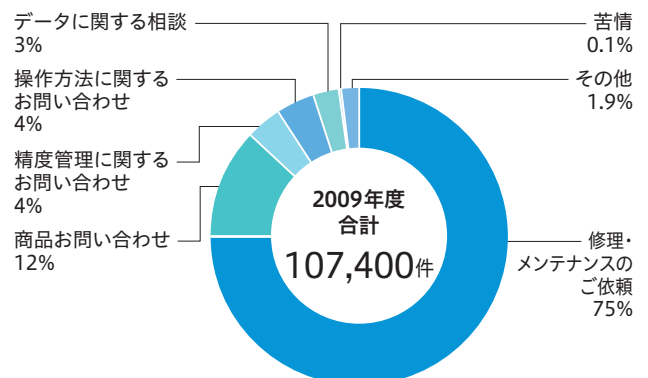
また、他社の製品をシスメックスが販売する場合は、その製造業者に対して定期的に監査を実施して品質を確認しています。また、定期的なミーティングを通じて情報を共有し、お客様からの問い合わせや苦情に速やかに対応できる体制をとっています。海外のグループ会社が独自に仕入・販売する他社製品については、各グループ会社が市場に導入する前に品質確認試験を実施していましたが、2009年度には、この試験の方法をグローバルに標準化しました。

サービス&サポート

お問い合わせに、迅速・確実にお応えするために

シスメックス(株)では、日本国内のお客様のための相談窓口「カスタマーサポートセンター」を設置し、豊富な知識を持った専任スタッフが、24時間365日体制(別途契約が必要)でお問い合わせに対応しています。

カスタマーサポートセンターへのお問い合わせ内容の内訳



同センターでは、過去のお問い合わせ内容やメンテナンス履歴などを蓄積し、すぐに参照できるようにすることで、お客様からのお問い合わせ・ご要望に迅速・確実にお応えしています。2009年度には、顧客対応の品質向上を目的として、電話対応のスキルと、製品に関する技術的な知識を向上させるための教育を実施しました。海外4地域(アメリカ、欧州、中国、アジア・パシフィック)においても、各統括会社に相談窓口を設置しています。

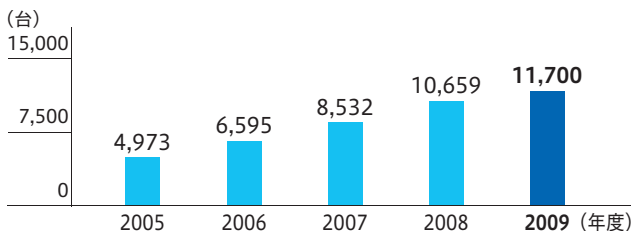
お客様の日々の精度管理をサポート

病院などの医療機関では、毎日の検査データの信頼性を確保するために装置の精度を日々管理しています。一般には「コントロール」と呼ばれる専用の試料を測定し、その結果を前日の測定結果や「標準値(適切に管理された装置でコントロールを測定した値)」と比較することによって、検査装置の状態をチェックします。

シスメックス(株)は、このコントロールや標準値を提供してお客様の精度管理をサポートしています。さらに、お客様のもとにある検査装置と、当社のカスタマーサポートセンターをオンラインで結ぶ「シスメックス・ネットワーク・コミュニケーション・システムズ(SNCS)」を構築しています。カスタマーサポートセンターでは、この「SNCS」を通じてお客様の装置から送られてくるコントロールの測定値を受信し、異常の有無を判定して結果を送信するサービスを提供しています。またSNCSを用いれば、お客様が気づく前に不具合の予兆を察知することができるため、機器の故障予防にも貢献しています。今後、こうした「予知」「予防」のサポート体制をさらに強化していく予定です。

2009年度は、SNCSのネットワークを高速回線化しました。今後、メンテナンス方法を紹介する動画など、高速回線ならではのサポートコンテンツを充実させていく予定です。

オンライン精度管理サービスに登録いただいている検査装置の世界累計



学術活動

医療従事者向けの学術セミナーを開催

シスメックスは、医師や看護師、臨床検査技師などの医療従事者の方々を対象としたセミナーや勉強会を開催し、学術

情報を発信しています。

2009年6月には、「第32回シスメックス学術セミナー」を開催しました。本セミナーは日本で毎年開催し、臨床検査に密接に関係する医学研究の最新情報を提供しています。今回のセミナーは、「自己免疫疾患～研究の最前線と臨床検査の進歩～」をテーマとして開催し、832名に参加いただきました。

また、中国など海外各地でも同様のセミナーを開催しています(P13-14参照)。



第32回シスメックス学術セミナー

病気や検査をテーマとした絵本を作成

シスメックスは、病気や検査に関する教育・啓発絵本を作成しています。診療所などに無償配布し、待合室などに置いていただいています。これらの絵本は、医学の知識がない方々やお子様にも興味を持って読んでもらえるよう、病気の特徴や検査・治療の意義を、わかりやすい物語形式で説明しており、お読みいただいた方々から、ご好評をいただいています。

日本語版以外に、英語版や中国語版、ベトナム語版も作成し、世界各地で広く無償配布しています。



医師会主催の健康相談会でも配布



2009年度に発行した絵本
「糖尿病性腎症のおはなし」「血栓症のおはなし」「鉄欠乏性貧血のおはなし」「急性白血病のおはなし」「血友病のおはなし」「とびだすからだ絵本」

自己実現と成長を支援

従業員一人ひとりが自主性を持ち、チャレンジ精神を發揮しながら働ける会社を目指し、公正な評価・処遇に努め、多様な人材育成プログラムを用意して自己実現を支援しています。また、多様な人材が安心して働くことができる職場環境の整備に取り組んでいます。

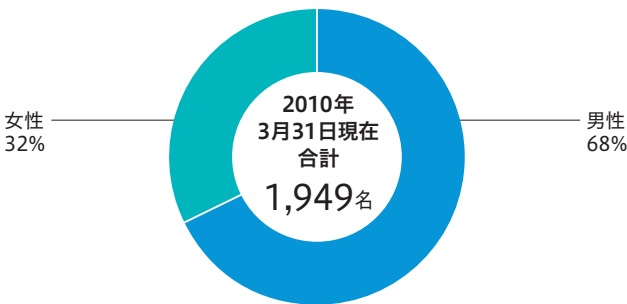
評価・処遇

能力・成果に基づく公平な人事評価

シスメックスは、従業員の自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長のための機会を与え、成果に応じた公正な処遇を提供するよう努めています。

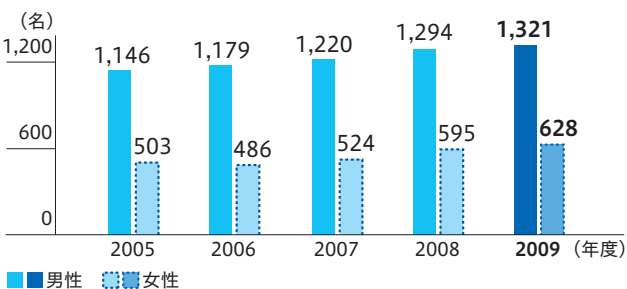
「能力・成果主義」を基本方針とし、人事考課においては、目標に対する達成度やプロセスを評価する「目標管理制度」を導入し、年功、学歴、性別などを評価の対象としないことで公平性を確保しています。また、公正さを確保するために、職層・職務ごとに期待される能力・成果の基準や、目標設定から評価にいたるまでの全プロセスを従業員に開示しています。この制度は、本人と上司が十分に話し合ったうえで目標を設定し、また、評価後も面談することから、納得性の確保にも

男女内訳(シスメックス(株))



注) 集計範囲は、シスメックス(株)の社員、嘱託、パートタイマー。

従業員数推移



注) 集計範囲は、シスメックス(株)の社員、嘱託、パートタイマー。

つながっています。また、嘱託社員とパートタイマーについても人事考課を実施しており、優秀な人材について適宜部門から推薦のあった人材に対して面接などを実施し、合格者を正社員として登用しています。2009年度には、8名を正社員として登用しました。

現在、企業理念「Sysmex Way」を実践につなげるための人事制度改訂に取り組んでいます。数年にわたって評価、処遇、人材育成などの諸制度を見直していく予定です。

人材育成

グローバルな人材の育成に注力

シスメックス(株)は、従業員の能力開発と働きがいの向上を目的に、多彩な教育研修を実施しています。

グローバルな人材を育成するために、海外現地法人で実務を経験する「現地法人派遣研修」や、大学などの専門機関で研究活動に従事する「プロフェッショナル人材育成研修」を実施しています。また、海外のグループ会社からの出向受入なども進めており、グローバルな人材交流を推進しています。



中央研究所
岩永 茂樹さん

「プロフェッショナル人材育成研修」で、米国スタンフォード大学に留学し、蛍光分子イメージング技術の開発に取り組む



商品企画グループ
隅田 庸市さん

「現地法人派遣研修」で米国のグループ会社シスメックス・アメリカに派遣され、マーケティング・語学などの習得に取り組む

仕事と家庭の両立支援

子育て支援の各種制度を整備

シスメックス(株)は、子供にとって大切な時期に、親子ができるだけ長く一緒に過ごせるよう、育児のための休業・勤務時間短縮制度を制定しています。勤務時間短縮の対象期間は「小学校3年の学業を終えるまで」、休業の対象期間は「満2歳に達するまで」としています。2009年度には、18名が勤務時間短縮制度を、32名が休業制度を利用しました。

また、2009年度には、子供の看護のために会社を休んだ場合に、積立有休を取得できるようにしました。対象となる子供の年齢は中学校就学前まで、年間10日まで取得できます。さらに、育児を理由にキャリアを中断した従業員に再び働く機会を与える「再雇用制度」を導入しました。2010年3月時点で5名が再雇用資格の認定を受けています。

2009年度には、これらの制度の使い方をわかりやすく解説した「働きやすさの窓口」サイトをイントラネット上に開設しました。育児や介護の手引書も閲覧できるようにしています。



「働きやすさの窓口」サイト

企業内託児所を運営

日本では少子高齢化が急速に進んでおり、企業にも次世代育成を支援することが求められています。また、従業員が出産や育児を理由にキャリアを中断することなく、安心して働き続けられる環境を整備することも大切です。

シスメックス(株)は、2009年4月に研究開発拠点「テクノパーク」内に、従業員が小学校就学前までの乳幼児を預けることができる託児所「シスメックスキッズパーク」を設立しました。2010年4月からは、常時保育だけでなく、一時保育も開始し、配偶者が非常勤で働いている場合や、保護者の疾病、弔事等により家族での保育が困難なときにも、一時的に利用できるようにしました。

2010年5月現在、10名の乳幼児を預かっています。

健康と安全への配慮

身心の健康の維持・向上

シスメックス(株)は、基本的な健康診断に加えて、人間ドッグや女性がん検診を実施し、疾病の早期発見に努めています。

メンタルヘルスについては、全社的な相談窓口を設け、従業員が精神科の産業医、保健師、カウンセラーと面談できる体制を整えています。また、年1回、イントラネットを利用した「ココロの健康診断」を実施しています。診断後に電話や面談による健康相談を受けることもできます。

また、医師の方を招いて従業員向け講演会を開催しており、2009年度は合計2回実施しました。

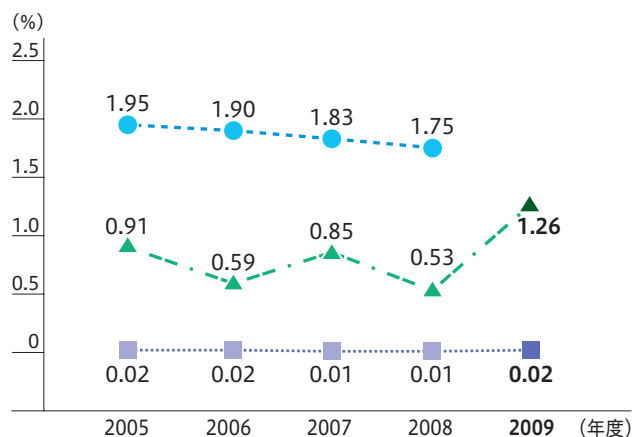
各事業所で安全衛生活動を実施

シスメックス(株)は、従業員の安全衛生を確保するための指針として「安全衛生規程」を定めるとともに、各事業所に安全衛生委員会を設置し、安心して働ける職場づくりに努めています。

事故時の応急措置や退避方法、危険性のある機械や原材料の取り扱い方、AED(自動体外式除細動器)の取り扱い方などについて教育を実施しているほか、市民救命士の育成にも取り組んでいます。

また、地震や火災などに備えて、地域の消防署と連携しながら避難訓練や消火訓練を実施しています。

労働災害度率/強度率(シスメックス(株))



注) 労働災害度率: のべ労働100万時間あたりの死傷者数の割合。
労働災害強度率: のべ労働1,000時間あたりの労働損失日数の割合。

長期にわたる信頼関係を構築

シスメックスは、調達先や販売代理店、アライアンスパートナーとともに成長し、発展していくことを目指しています。公正かつ透明性の高い取引を維持しながら信頼関係に基づくパートナーシップを構築することで、優れた製品を提供し、医療への貢献を果たします。

調達先との関係

調達方針

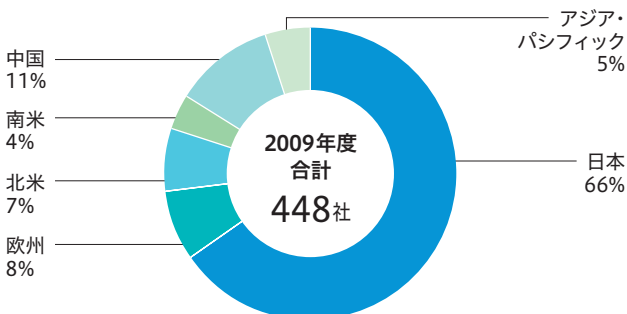
- 優れた製品の提供を通じた医療への貢献
- お取引先との信頼関係に基づく相互成長・発展
 - より良いパートナーシップ
 - 公正かつ透明性の高い購買取引
 - 関係法令の遵守と機密保持
 - 環境への配慮

協力して調達部品・原材料の品質を高めています

お客様に、確かな品質の製品を安定的に提供するためには、調達部品・原材料の品質を維持・向上する必要があります。そこでシスメックスは、調達先に対して、品質マネジメントシステムを自己診断できるチェックリストを提供したり、シスメックスの調達部門、品質管理部門のメンバーが調達先の工場を訪問し、現場の品質改善に協力するなど、調達先の品質活動を支援しています。

2009年度には、新たに品質に関する要求事項を明示した品質協定書を作成し、調達先との協定締結を開始しました。

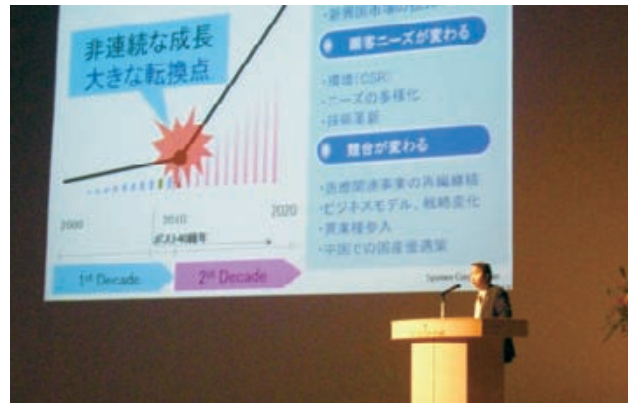
調達先数※の地域別割合



※ 製品用部品・原材料の調達先の数。

シスメックスサプライヤー会を開催

毎年、調達先に当社の事業の方向性と購買方針をご理解いただく機会として「シスメックスサプライヤー会」を開催し、関係強化に努めています。2010年2月に開催した2009年度のサプライヤー会には、216社、323名にご出席いただきました。事業活動や購買方針に関する説明、社外講師による特別講演を実施しました。あわせて、技術課題の解決などを通じて当社事業の発展に特に貢献いただいた10社を表彰しました。



2009年度シスメックスサプライヤー会

販売代理店との関係

基本となるコンプライアンスに注力

シスメックスは、販売代理店と良きパートナーシップを維持するために、コンプライアンスの徹底に取り組んでいます。販売代理店との関係において、従業員が遵守すべきルールとして「優越的地位濫用の禁止」「過剰な接待・贈物の禁止」などを定め、これらを遵守しています。

販売代理店に対しては、新製品発売時に開催する「製品説明会」などでシスメックスのコンプライアンスに関する方針や活動を説明し、コンプライアンスの重要性を認識いただいています。また、2008年度からは、腐敗防止を徹底するために「シスメックスプロモーションコード」を策定し、販売代理店とともに公正な販売を維持するための取り組みを推進しています(P26参照)。

充実した対話機会を設定

シスメックスは、利益還元と成長投資のバランスをとることで、持続的な成長を目指しています。また、株主・投資家の皆様にシスメックスの経営と事業運営について理解を深めていただくために、積極的な情報開示や直接対話の機会充実に努めています。

株主総会

総会後に研究開発拠点の見学会を実施

シスメックスでは、株主の皆様との直接対話の機会を大切に、できるだけ多くの方々に参加していただけるよう努めています。

2009年度は、総会終了後にシスメックスグループの研究開発の中核拠点であるテクノパークの見学会を実施しました。説明員による案内や、製品展示やパネル展示を通じて、「“知”の創造と継承」をコンセプトとする研究開発体制への理解を深めていただきました。

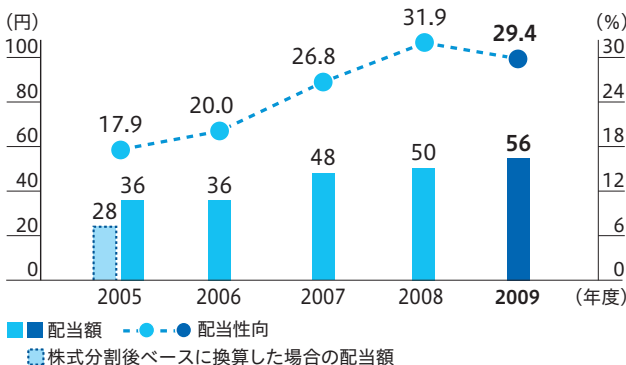
株主総会に参加することが難しい株主の皆様のために、郵送やインターネットでも議決権を行使できるようにしています。なお、株主総会の招集通知と決議通知に関しては、英文版も作成しています。

配当

安定配当を目指して

継続的な安定配当に留意するとともに業績に裏づけられた成果を配分することを基本方針とし、連結業績と配当性向を勘案して配当を実施しています。内部留保金は将来にわたって高成長を持続させるために研究開発・設備投資に有効投資しています。

配当性向 / 1株当たり配当金(連結)



注) 2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。

情報開示

独自基準を設け、積極的に開示

シスメックスでは証券取引に関する法令や証券取引所のできる適時開示規則などを遵守することはもちろんのこと、当社独自の基準を設け、投資判断に影響を与えると判断した情報を積極的に開示するよう努めています。

また、重大な問題が発生した場合に情報開示の可否や方法について審議する機関として「情報開示委員会」を設置しています。

IR活動

積極的に直接対話を実施

シスメックスは、投資家の皆様と直接対話する機会を多数設け、経営方針や事業戦略などをご説明しています。

機関投資家・アナリスト向けの個別ミーティングを国内外で積極的に実施しており、2009年度の開催実績は290件となっています。さらに、新たな取り組みとして機関投資家・アナリスト向けに、中国のグループ会社シスメックス・上海の見学会を開催しました。

また、個人投資家向けの説明会として、(株)キリン堂、オムロン(株)、シスメックス(株)の3社による説明会を開催し、親しみやすく、わかりやすい説明に努めました。



2010年3月期決算説明会

グローバルに社会貢献活動を展開

シスメックスは、企業市民としての責任を自覚し、「医療」分野をはじめとして、「科学」「文化」「環境」など幅広い分野にわたって積極的に社会貢献活動を実施しています。グローバル企業として、その活動範囲は創業の地である日本の神戸から世界中に広がっており、事業を展開する各地で、現地の人々とともに社会課題の解決に取り組んでいます。

欧州で—



ドイツで知的障害者のアスリートを支援



クロアチアで、白血病と闘う少年に検査機器を寄贈

欧州で—

ドイツで知的障害者のアスリートを支援

寄付を通じて、スペシャルオリンピックスドイツ大会（2010年6月開催）出場を目指す知的障害者のアスリート48名を支援しました。

クロアチアで、白血病と闘う少年に検査機器を寄贈

病院のない離島に住み、白血病と闘っている少年にクリスマスプレゼントとしてシスメックスの血液検査機器を寄贈し、自宅で検査ができるようにしました。

アジアで—

ベトナムで第2回国際学術セミナーを開催

2009年12月、第2回国際学術セミナーを開催し、医療従事者の方々に最新の学術情報を提供しました。

フィリピンの台風被災地を支援

2009年9月、フィリピンのマニラが台風によって大きな被害を受けました。シンガポールにあるグループ会社シスメックス・アジアパシフィックは、従業員から支援金を募り、被災地の方々に寄付しました。

アジアで—



ベトナムで第2回国際学術セミナーを開催



フィリピンの台風被災地を支援

日本で—

神戸医療産業都市構想への参画

「神戸医療産業都市構想」は、産官学が協力して神戸市への医療・産業の集積を図るプロジェクトです。シスメックスは、プロジェクトの中心的な拠点の一つである「神戸臨床研究情報センター」内に「シスメックス浅野研究室」を開設し、血液学の第一人者である浅野茂隆博士（東京大学名誉教授、早稲田大学理工学術院特任教授）の指導のもと、骨髄移植などの細胞療法の効果・安全性の向上を目指して研究を進めています。

神戸大学大学院医学研究科の寄附講座

2004年度から、神戸大学大学院医学研究科に寄附講座「立証検査医学講座」を開設しています。同講座では、自己免疫疾患に関して、科学的根拠に基づいた検査診断法の確立を目指しています。

中谷電子計測技術振興財団を通じた研究助成

1984年に、シスメックス（株）の創業者、故中谷太郎氏などの基金拠出によって設立された中谷電子計測技術振興財団を通じて電子計測技術を対象とした研究を助成しています。

日本で—



乳がんピンクリボン活動に協力



中学校での出張授業を実施



「こども健全育成システム構築研究会」を発足



高校生向けのサイエンスフェアに参加



JICAを通じて研修生を受け入れ

JICAを通じて研修生を受け入れ

毎年、JICAを通じて発展途上国の医療従事者を受け入れ、検査機器の使用方法などに関する研修を実施しています。2009年度には、27カ国から48名を受け入れました。

乳がんピンクリボン活動に協力

2004年度からピンクリボン活動に協力しています。2009年10月に開催された「ピンクリボンシンポジウム2009」では、乳がんのリンパ節転移を判定する技術を紹介しました。

高校生向けのサイエンスフェアに参加

2010年1月に開催された「第2回サイエンスフェアin兵庫※」に参加し、シスメックス製品の展示・解説を実施しました。

※ 兵庫県下の高校生の理数分野における交流の促進と、進路選択の指針の形成を目的として開催されているイベント

中学校での出張授業

2008年度から、地元神戸の中学生を対象として、ヘモグロビン測定体験なども交えた血液学の出張授業を実施しています。2010年2月には第2回の出張授業を実施し、87名の生徒が参加しました。

米州で—



アメリカ合衆国で、がん撲滅のためのイベントに参加



アメリカ合衆国で従業員の子女のために職場見学会を開催



第21回オリンピック冬季競技大会(バンクーバーオリンピック)で当社製品が活躍

「こども健全育成システム構築研究会」を発足

2009年10月、シスメックスを含む複数の民間企業と、行政、スポーツ指導者で「こども健全育成システム構築研究会」を発足させ、2010年2月に「スポーツですこやかに伸びるこどもづくりシンポジウム」を開催しました。

米州で—

アメリカ合衆国で、がん撲滅のためのイベントに参加

2009年11月、グループ会社シスメックス・アメリカの従業員20名とその家族が、がん撲滅を訴えて歩く「乳がん撲滅5マイルウォーク」(米国がん協会主催)に参加しました。

アメリカ合衆国で従業員の子女のために職場見学会を開催

2009年8月、シスメックス・アメリカでは、従業員の子供のために、親の職場見学会を開催しました。

カナダで開催された第21回オリンピック冬季競技大会

(バンクーバーオリンピック)でシスメックス製品が活躍
スピードスケート会場や近隣病院にシスメックスの検査機器が設置され、ドーピング検査や選手の体調管理に活躍しました。

健やかな地球環境を守るために

シスメックスは、ヘルスケア分野における「環境先進企業」を目指し、製品の設計から、開発、調達、生産、物流、販売、サービス、製品使用に至るまでの各段階において環境負荷の低減に取り組み、地球環境との調和を追求しています。

環境マネジメント

環境方針

私たちは、ヘルスケア分野にかかわる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. 環境保全を重視した事業活動を行い、社会の全ての皆様に安心をお届けします。
2. 製品のライフサイクルの各段階において、環境への影響を考慮し、環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
3. すべての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、リサイクルを推進し、化学物質の適正管理に努めます。
4. あらゆる国または地域の適用される環境に関する法令、規制、協定などを遵守します。
5. 環境保全活動の継続的な改善を行い、汚染を予防し、私たちの製品が環境に与える影響を最小限にするように努めます。
6. 環境教育・啓発を通じて環境意識の向上を図るとともに、地域・社会の一員として環境保全活動を通じた社会貢献に取り組みます。
7. 環境方針から環境目的・目標を設定し、計画的に目標達成に取り組みます。

2009年5月7日
シスメックス株式会社
代表取締役社長 家次 恒

注) 環境方針は2000年3月に制定、2009年5月改定。

環境方針

2009年度に環境方針を改訂し、医療・ヘルスケアの分野で事業を展開する企業として、環境保全活動を通じて世界の人々が健康で暮らすことができる社会の実現に貢献していくことを明記しました。

この環境方針のもと、製品ライフサイクルでの環境負荷低減を重点課題と位置づけ、製品の設計から開発・調達・生産・物流・製品使用に至るまでの各段階における環境負荷の低減に取り組んでいます。

ISO14001 認証取得の推進

シスメックスでは、2000年のシスメックス(株)加古川工場をはじめとして、主要な拠点で環境マネジメントの国際規格

ISO14001の認証取得を推進しています。

日本においては、関係会社を含め、開発・生産・物流の主要9拠点すべてで認証を取得しています。

海外では、グループ会社の生産工場における認証取得を進めています。2009年12月には、2つのグループ会社、シスメックス・アメリカとシスメックス・リージェンツ・アメリカが、新たに認証を取得しました。

調達先の環境マネジメントシステム構築

シスメックスは、調達先に対してシスメックスサプライヤー会(P31参照)などで環境マネジメントシステムの構築を奨励し、構築率の向上を推進しています。また、調達先に環境マネジメントシステム構築の必要性を認識していただくことを目的とした自己診断アンケートを実施しています。

2009年度は、主要取引先5社が新たにISO14001を取得し、主要取引先における環境マネジメントシステム構築率は69%となりました。

環境監査

シスメックスのISO14001認証取得拠点では、外部認証機関による審査を毎年受審しています。

また、環境管理委員会の下部組織による内部環境監査も実施しています。2009年度の監査では、不適合が8件検出されましたが、すべて適切に対応しました。内部監査員のレベルアップにも継続して取り組んでおり、2009年度は、外部講師による内部環境監査員養成セミナーを実施しました。



内部環境監査員養成セミナー

2020年までの長期環境目標を策定

シスメックスは、2010年度に「シスメックスグループ環境行動計画(シスメックス・エコビジョン2020)」を策定し、その中で2020年度を達成期限とする長期環境目標を設定しました。

今後、目標達成に向けて、環境に配慮した製品・サービスの開発・普及、事業活動の効率化による省エネルギー・省資源化などを推進していきます。

長期環境目標(2020年度)

地球温暖化対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 検体検査機器の消費電力25%削減(従来機種比) ● 事業所における温室効果ガス排出量50%削減(連結売上高原単位) ● 物流における国内CO₂排出量11%削減(単体売上高原単位) ● 物流におけるグローバルCO₂排出量の削減目標の設定 ● 国内社用車におけるCO₂排出量50%削減(国内売上高原単位)
資源の有効利用と廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品の容器包装・輸送梱包材15%削減(単体売上高原単位) ● 製品の容器包装・輸送梱包材グローバル目標の設定 ● 事業所における廃棄物等排出量15%削減(連結売上高原単位) ● 国内: 全対象事業所でリサイクル率99%以上を達成 ● 海外: 全対象事業所でリサイクル率95%以上を達成
水資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業所における水使用量30%削減(連結売上高原単位)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 脱動物由来原料製品の開発 ● 紙パック試薬容器の開発 ● 環境配慮型設計ガイドラインの策定と運用 ● 主要サプライヤーのEMS構築率100% ● 対象事業所におけるISO14001認証取得 ● 環境に配慮したサービスモデルの推進 ● ライフサイクルアセスメント(LCA)の推進

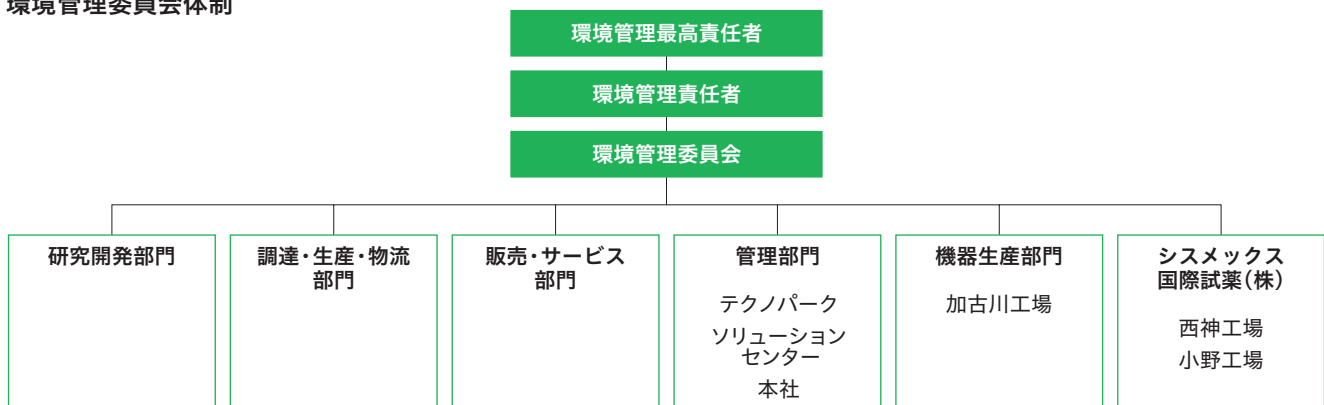
環境マネジメント体制

シスメックス(株)では、CSR・環境推進室担当執行役員を「環境管理最高責任者」および「環境管理責任者」に任命するとともに、「環境管理委員会」を設置し、方針・計画の策定、

計画の進捗管理、実績の評価などにあたっています。




2009年度からは環境活動を事業活動に組み込むために、各機能別本部の本部長を環境管理委員会のメンバーとしました。

環境管理委員会体制



事業活動にともなう環境負荷

対象期間：2009年4月1日～2010年3月31日

		INPUT		
		単位	2008年度	2009年度
 総エネルギー	電力	千kWh	16,799	17,498
	燃料(都市ガス)	千Nm ³	222.8	214.1
	燃料(LPG)	t	48.1	47.9
	燃料(社用車ガソリン)	kl	42.8	58.5 ^{※1}
	燃料(灯油)	kl	41.6	45.2
 総物質投入量	OA紙(オフィスで使用)	t	41.5	41.6
	PRTR ^{※2} 管理対象化学物質取扱量	t	38.4	38.2
 水資源	上水	m ³	124,206	143,339



対象事業所：環境負荷データはシスメックス(株)およびシスメックス国際試薬(株)の6つの事業所を対象としています。



		OUTPUT		
		単位	2008年度	2009年度
 温室効果ガス排出量		t-CO ₂	6,727 ^{※3}	6,947 ^{※3}
 社用車使用による温室効果ガス排出量		t-CO ₂	99	136
 化学物質排出量 (PRTR^{※2}管理対象化学物質排出量・移動量)		t	1.8	1.6
 廃棄物量		t	96	43
 リサイクル量(リサイクル率)		t(%)	524(84.5)	573(93.0)
 廃棄物等総排出量^{※4}		t	620	616
 排水量		m ³	98,182	81,039

- ※1 社用車ガソリン使用量は、従来、燃費および走行距離から算出していましたが、2009年度から燃料使用量を直接把握する方法に変更しました。
- ※2 PRTR：Pollutant Release and Transfer Registerの略。有害性のある化学物質が、どのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、廃棄物に含まれて構外に運び出されたかというデータを把握・集計し、公表する制度です。化学物質把握管理促進法で定められた第一種指定化学物質354物質が対象となります。
- ※3 温室効果ガス排出量は、長期環境目標を設定するにあたって算出方法を見直しました。主な変更点は、購入電力のCO₂の排出係数について従来の0.555kg/kWhから、各電力供給事業者が公表する排出係数に変更したこと、および社用車使用による温室効果ガス排出量を別立てとしたことです。昨年度までの算出方法に基づいた場合、2008年度の排出量は10,134 t-CO₂、2009年度の排出量は10,549 t-CO₂となります。
- ※4 廃棄物等総排出量：感染性廃棄物、廃棄物、リサイクル量の合計です。事業所外へ持ち出した時点での重量を集計しています。

2009年度環境活動計画と実績

機能	実施計画	2009年度の主な活動実績
環境 マネジメント	マネジメント強化	<ul style="list-style-type: none"> グループ全体の環境活動を推進するため、長期環境目標を策定した(2010年4月)。 省エネ法、温対法対応のため、関連するデータの収集範囲を拡大。 環境管理委員会の下部組織を設置し、内部環境監査や法規制の順守評価などの対応強化を図った。
	環境チームによる環境推進	<ul style="list-style-type: none"> イントラネットを活用し、従業員全員参加の活動を継続して計画・推進。事業所周辺のクリーン作戦、リサイクルマーケット出店、家庭内エコ活動などを企画・実施。
商品企画・ 設計・開発	RoHS指令への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 体外診断装置への規制発効に先行して製品のRoHS指令対応を継続実施。 科学計測機器(FPIA-3000)については対応を完了。
	化学物質削減への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質の把握を強化するため、化学物質管理システムを導入完了。 研究、商品開発の各段階で、規制対象物質をチェックするしくみを整備・運用。
	リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> 機器包装の設計をより環境に配慮するよう、ルールを整備。
	脱動物化原材料の開発	<ul style="list-style-type: none"> 非動物由来原材料を使用した試薬製品を拡大するため、設計開発を継続実施。
	省エネルギー・省資源化	<ul style="list-style-type: none"> 機器製品における消費電力削減、軽量化、廃液量の低減の目標に従い設計開発実施 試薬開発において環境に配慮した設計を実施するしくみを策定し、運用。 機器製品の設計変更により、金属・非金属・樹脂の各材料の使用量削減を継続実施。
生産	工場ゼロエミッションの推進	<ul style="list-style-type: none"> 3工場でゼロエミッションを推進。リサイクル率は96.1%で、前年比+2.4%(加古川工場100.0%、西神工場92.9%、小野工場98.7%)。
	化学物質管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ハンダ、研磨剤の置き換えによりPRTR対象物質の使用削減を推進。 試験方法の見直しによる試薬使用量を削減。
調達	調達品の省資源化	<ul style="list-style-type: none"> 工場でのリユース率向上のため、通い箱化の推進。 
	サプライヤーへの環境活動推進	<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントシステムの導入支援を継続実施(自己診断による認識向上)。
物流	CO ₂ 排出状況の把握と削減	<ul style="list-style-type: none"> 工場駐車中のアイドリングストップなどを推進したが、前年度比で効率性が低下。
	製品梱包材料の軽量化	<ul style="list-style-type: none"> 製品CA-8000梱包材料の軽量化を検討、従来重量に比べ29%の削減を達成。 
	エコ物流活動推進	<ul style="list-style-type: none"> 輸送箱のダウンサイズ化、輸送形態等の見直しなどを実施。 <p style="text-align: right;">ダウンサイズ化した輸送箱の耐久性試験</p> 
販売・ サービス	廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> 法令・条例に基づく廃棄委託業者の現地確認を徹底実施。
	サービスの効率化による環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> アジア地域に対するネットワークサービス加入施設の拡大を推進。
オフィス・ 事業所	紙・ごみ・電気の削減	<ul style="list-style-type: none"> 生ゴミ処理機運用により廃棄物等総排出量を低減(加古川工場)。 OA紙の削減に向け、会議のペーパーレス化、リサイクルなどを継続して推進。 事業所の電力量削減について、消灯や温度の適正管理の徹底、クールビズを推進。空調更新(小野工場)。  <p style="text-align: right;">生ゴミ処理機</p>
環境コミュニ ケーション	環境報告書の発行など	<ul style="list-style-type: none"> 日本語版、英語版のCSR報告書を発行した。 地元自治体との環境保全協定締結による活動推進(ソリューションセンター)。

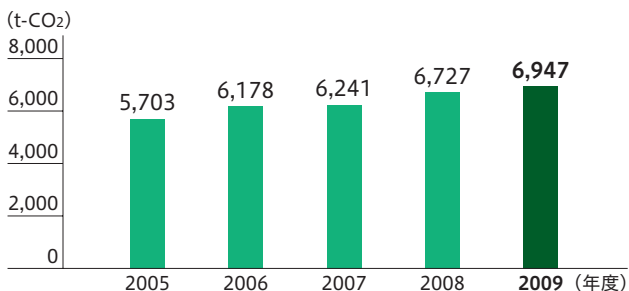
生産工場・事業所における環境配慮

CO₂排出量の抑制

生産工場・事業所からのCO₂排出の80%以上は電力使用によるものです。

2009年度には、前年度に続き、各工場で製品あたりの作業時間を削減して使用電力量の低減を推進したほか、スポット空調をはじめとした省エネ機器への入れ替えなどを推進しました。しかし、試薬の増産などが影響し、国内主要6拠点におけるCO₂排出量は前年度から約4.1%増加しました。

CO₂排出量(6拠点合計)



集計範囲: シスメックス(株)の本社、テクノパーク、ソリューションセンター、加古川工場、およびシスメックス国際試薬(株)の西神工場、小野工場
 注) 2009年度から温室効果ガス排出量の算出方法を見直しました。
 上記グラフの数値は、すべて新しい方法で算出したものです。
 算出方法についての詳細は、P37の※3をご覧ください。

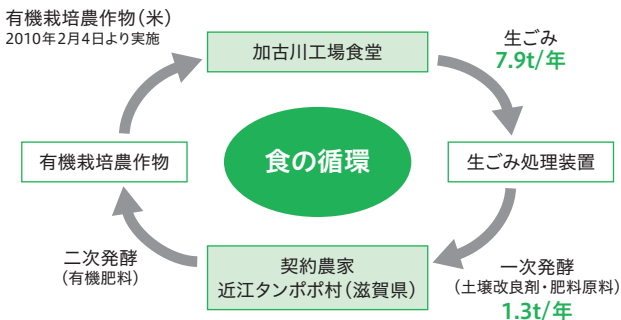
廃棄物削減

加古川工場、西神工場、小野工場の3工場では、2006年度からゼロエミッションを目指し、リサイクルを推進しています。

2009年度には、加古川工場に生ゴミ処理機を導入し、食堂の生ゴミを堆肥化して契約農家に提供し、この堆肥を利用して農家が有機栽培した農作物を食堂で利用する「食品リサイクルループ」のしくみを構築しました。この取り組みは、地域と一体となって生物由来の有機性資源であるバイオマスを活用している先導的なケースとして、「ひょうごバイオマスecoモデル※1」に登録されました。

※1 ひょうごバイオマスecoモデル: バイオマスを先導的に活用している取り組みを「ひょうごバイオマスecoモデル」として登録し、PRすることで、兵庫県下におけるバイオマスの利活用を推進を図る制度です。

食品廃棄物(生ごみ)のリサイクル



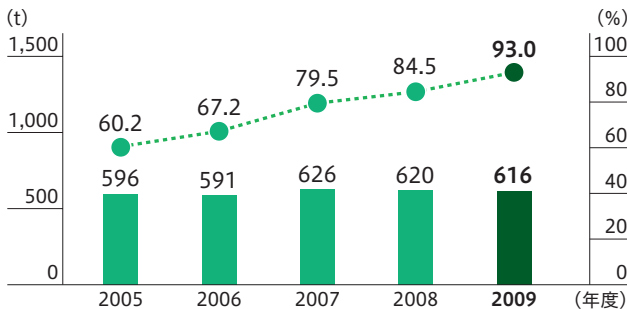
「ひょうごバイオマスecoモデル」の認定状、授与式

さらに、2008年度に開始した、加古川工場の食堂や従業員の家庭から出る食用廃油を回収し、バイオディーゼルの原料として(社福)姫路学園※2に提供する活動についても継続して取り組みました。

2008年度に本社地区のみで試行した廃棄物処理業者立会確認については、各地の支店・営業所にまで範囲を広げました。処理業者のうち、条例で義務づけられている合計22カ所に対して、立会確認を実施しました。

※2 (社福)姫路学園は、兵庫県姫路市の知的障害者入所保護・更生施設です。バイオディーゼル事業などを通じて、学園生の授産・就労・自立支援に取り組んでいます。

廃棄物量、リサイクル率(6拠点合計)



■ 廃棄物量 ● リサイクル率

集計範囲: シスメックス(株)の本社、テクノパーク、ソリューションセンター、加古川工場、およびシスメックス国際試薬(株)の西神工場、小野工場

外部からの評価

研究開発拠点「テクノパーク」には、緑地と池を設けており、これらの面積が敷地の半分以上を占めています。また、建物は自然エネルギーである太陽光を取り入れやすい設計とするなど、さまざまな点で環境に配慮しています。

同拠点は、2009年度には、(財)都市緑化基金主催の第29回「緑の都市賞」において、周辺の環境や生態系を尊重した設計コンセプトなどが評価され、奨励賞を受賞しました。なお、(社)ニューオフィス推進協議会が主催する第22回「日経ニューオフィス賞」において「日経ニューオフィス推進賞」も受賞しました。

「シスメックス あんしんレポート2010」を読んで

1. 「安心」を基軸にしたCSR

シスメックスの社会との約束は、あんしんレポートというCSR取り組みに関する報告書の名称に象徴されているように、すべての人びとに「安心」をお届けしたいという経営トップの想いに凝縮されています。トップメッセージには、企業理念と行動基準をもとにしたシスメックスのCSR活動の考え方が示され、CSR活動が総括されています。2009年度は、検体検査関連製品における品質の重要性を強く認識し、品質コンプライアンス方針が策定されました。また、長期環境目標も設定されました。これはシスメックスの社会に対する責任として高く評価できます。

2. グローバルなCSR活動

世界150カ国以上の医療機関に、「安心」をキーワードとして製品やサービスを提供しているシスメックスの事業は、8つのグローバルな活動レポートに紹介されています。いずれも読み応えがあります。たとえば、新型インフルエンザの大流行に備えた製品供給と機器修理を継続することを主眼として行動計画を作成することは、事業継続計画そのものであり、社会的責任を果たす取り組みであると理解できます。これらの活動については、報告書でも継続的に情報開示されることを期待します。

3. 行動基準にそった具体的な活動の報告

行動基準に示された5つのステークホルダーに対する責任と

行動としての取り組みもそれぞれ報告されています。いずれもポイントを絞った取り組み内容が紹介され、読みやすく良く理解できます。特に、嘱託社員とパートタイマーに対する人事考課の実施による正社員への登用プロセスの紹介は、実績も開示されていて評価されます。また、地球環境への責任と行動として、環境方針の改訂と、2020年度までの環境目標の設定が紹介されています。これらからシスメックスの環境負荷低減に対する意欲的な取り組みが良く理解できます。

4. CSRマネジメントの構築を

このあんしんレポートを読めばシスメックスのCSR活動に取り組む意欲が読者に伝わります。今後は、ステークホルダーのニーズを明確にするための双方向のコミュニケーションを強化されることが重要と思います。さらに、定性的でも良いのでCSR活動の目標を設定すること、活動の有効性の確認など、PDCAのマネジメントサイクルを確立することが次のステップとして重要と思われます。シスメックスのCSR活動のさらなるステップアップを期待します。



神戸大学大学院
経営学研究科教授
國部 克彦 様

ご意見を受けて

真摯かつ丁寧なご意見をくださった國部先生に感謝申し上げます。

医療機関をはじめとするステークホルダーの皆様「安心」をお届けするための取り組みは、当社グループにとって非常に重要な社会的責任であると認識しており、今後も積極的に取り組んでまいります。高く評価いただいた環境面の長期目標についても、改めてシスメックスの環境負荷、活動の効果を詳細に計測するとともに、地球環境保全と事業継続の両立を主眼におき、達成に向けて着実に努力を重ねてまいります。

また、CSRマネジメントについては、ステークホルダーとの

コミュニケーションを密にし、CSR活動に十分に反映させていく所存です。いただきました先生からのアドバイスを真摯に検討させていただき、今後も継続してCSR活動を着実にステップアップさせていきたいと考えております。



取締役 専務執行役員
CSR・環境推進担当
雪本 賢一



シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 〒651-0073
Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524

www.sysmex.co.jp



この冊子は、環境に配慮した用紙と大豆油インキおよび水無し印刷を採用しています。